

いわき市立
美術館年報

平成29年度

目次

沿革	2
展覧会事業	3
常設展	3
企画展	9
レオナール・フジタとモデルたち —素晴らしき乳白色の肌—	9
デイヴィッド・ホックニー版画展	15
魔法の美術館 光と遊ぶ超体感型ミュージアム	21
現代アートの輝き —多様な人間像— ピカソからウォーホルまで	23
ロートレックとベル・エポックの巴里—1900年	27
小企画展	36
いわき市小・中学生版画展	36
NEW ART SCENE IN IWAKI 片口直樹展	38
共催展	39
第47回いわき市民美術展覧会	39
普及事業	42
移動美術館	42
講演会	43
美術講座	44
ギャラリー・トーク	44
ワークショップ	45
実技講座	46
公開制作	47
映像鑑賞会	47
コンサート&パフォーマンス	47
出版	48
実技講習室の公開	48
図書室の公開	49
実習生の受け入れ	49
共催事業	49
所蔵資料	51
美術品収蔵状況	51
美術品貸出状況	52
所蔵資料に関する状況	52
新収蔵作品	53
管理・運営	58
美術館関係法規	58
いわき市立美術館条例	58
美術館関係法規	60
いわき市立美術館管理規則	60
利用者一覧	64
平成29年度当初予算	66
名簿	67
施設案内	68
利用案内	69

沿革

- 昭和53年 2月 いわき市民ギャラリー主催による「ヘンリームーア展」が開催され盛況をおさめたことが市民の反響をよび、市立美術館建設の機運が高まる
- 昭和53年 6月 市総合計画の中で、前期に美術館建設計画を盛り込む
- 昭和54年 5月 美術館建設基本構想委員会を設置、委員6人を委嘱
- 昭和54年 8月 同委員会より美術館の基本構想について答申
- 昭和54年11月 基本構想を具体的に検討するため、市民20名による美術館建設審議会を設置
- 昭和55年 3月 美術品選定評価委員会を設置、委員5名を委嘱
- 昭和55年 9月 美術館・博物館建設準備室を設置
- 昭和55年 9月 美術館建設審議会から美術館建設について答申
- 昭和55年10月 基本設計は、指名競争設計方式で行うことを決める
- 昭和56年 1月 美術館建設基本設計審議会を設置、委員14名を委嘱
- 昭和56年 1月 同委員会で佐藤武夫設計事務所の案を選定
- 昭和56年 9月 美術館実施計画書の提出
- 昭和56年12月 市議会で美術館工事請負契約を決議
- 昭和56年12月 建設工事着工
- 昭和58年11月 竣工
- 昭和58年12月 市議会において美術館条例を決議
- 昭和59年 4月 美術館組織発足
- 昭和59年 4月28日 開館
- 昭和59年 4月29日 一般公開
- 昭和59年10月10日 いわき市立美術館友の会発足
- 平成3年 4月 常設展の観覧料を祝日無料とする
- 平成4年 4月 企画展の観覧をもって常設展観覧無料とする
7月、8月の金曜日の夜間開館開始
- 平成4年10月 美術館協議会より「いわき市立美術館振興策」が提出される
- 平成5年 1月 毎月第2土曜日を市内の小中学生の常設展の観覧無料とする
- 平成7年 4月 毎月第2、第4土曜日を市内の小中学生の常設展の観覧無料とする
- 平成12年 3月 美術館協議会より「いわき市立美術館第2次振興策」が提出される
- 平成14年 4月 障害者、高齢者の観覧を無料とする。また、市内の児童生徒などが土曜日、日曜日に観覧する場合、および学校の教育活動などで観覧する場合の観覧料を無料とする
- 平成15年 9月～12月 大規模改修工事（休館）
- 平成19年 3月～7月 アスベスト除去工事（休館）
- 平成23年 3月11日 東日本大震災
- 平成25年 9月～平成26年11月 空気調和設備改修工事（休館）
- 平成28年 4月 行政組織の改革等に伴い文化スポーツ業務が市長部局に移管。美術館事業は補助執行により市長部局文化振興課の所管となる。



美術館外観

今日の美術 —ART TODAY (前期・後期)—

前期の展示は「常設展へようこそ」と題し、大量生産・大量消費社会に生まれた大衆文化のイメージ（雑誌、広告、写真、漫画など）をテーマや素材とした「ポップアート」、非芸術的な「もの」をそのまま提示することによって新しい現実の表現を求めた「ヌーヴォー・レアリズム」を紹介した。展示作品の中では、近年大規模な回顧展を開催した草間彌生の作品が特に人気を集めた。

「美術のちから」と題した後期展では、1950年代に世界を席捲したアンフォルメル（非定型）運動に身を置いた作家たち、1954年に関西で結成された「具体美術協会」のメンバー、さらに「読売アンデパンダン展」で“反

芸術”と揶揄された作家たちの作品を展示し、50年代から60年代にかけての日本の前衛美術を展観した。

また前期の小企画としては、平成28年度収蔵の田口安男、川島清、熊坂太郎らの作品を展示した「新収蔵作品から」、色彩と形態によって画面を構成し視覚芸術の可能性を追求した作品による「いろとかたち」を開催。

後期は、社会との関係をさまざまな技法や手段で問いかける国内外の作家による「社会と美術」、材料や用具、制作工程が異なる複数の版画表現を紹介する「版がひらく世界」の2つの小企画展を開催した。

会期	前期Ⅰ	2017年 4月 1日(土)~2017年 6月25日(日)
	前期Ⅱ	2017年 6月27日(火)~2017年 9月24日(日)
	後期Ⅰ	2017年 9月26日(火)~2017年12月24日(日)
	後期Ⅱ	2017年12月26日(火)~2018年 3月31日(土)
会場	いわき市立美術館 常設展示室	
主催	いわき市立美術館	



作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
平成 29 年度 常設展前期 I 出品リスト (平成 29 年 4 月 1 日～平成 29 年 6 月 25 日)						
■常設展へようこそ						
1	アンディ・ウォーホル	1928-87	花 (No. 1～5)	1970	91.5×91.5	シルクスクリーン・紙
2	ロイ・リクテンスタイン	1923-97	二つの円のある近代絵画	1966	153×122	油彩・カンヴァス
3	アラン・ダーカンジェロ	1930-	プロポジション # 5	1966	153×153	アクリル・カンヴァス
4	レッド・グルームス	1937-	肥満した足	1966	76×78	水彩、コラーージュ・紙
5	パトリック・コールフィールド	1936-	ピクニック・セット	1978	91.5×86	シルクスクリーン・紙
6	デイヴィッド・ホックニー	1937-	線で描かれたリトグラフの水	1978	74×86	リトグラフ・紙
7	デイヴィッド・ホックニー	1937-	線とクレヨンで描かれたリトグラフの水	1978-80	74×86	リトグラフ・紙
8	デイヴィッド・ホックニー	1937-	線とクレヨンとブルーの薄い染料で描かれたリトグラフの水	1978-80	74×86	リトグラフ・紙
9	デイヴィッド・ホックニー	1937-	線とクレヨンと二色のブルーの薄い染料で描かれたリトグラフの水	1978-80	74×86	リトグラフ・紙
10	デイヴィッド・ホックニー	1937-	花瓶の水仙	1980	112.5×76.3	リトグラフ・紙
11	セザール	1921-98	コンプレッション 2	1976	100.2×90.2	カードボード
12	アルマン	1928-05	ダマスカスの夫人の腰	1974	164×124×13	コントラバス、弓、コンクリート
13	イヴ・クライン	1928-62	火の絵画	1961	132×64	焦げた厚紙、板
14	クリスト	1935-	梱包された裸婦	1968	56×71.2	コラーージュ(紙、ビニール、紐)
15	クリスト	1935-	Large valley curtain	1971	91.6×243.2	ドローイング、コラーージュ・紙
16	草間彌生	1929-	Interminable Net No.1	1959	147.6×142	油彩・カンヴァス
17	草間彌生	1929-	最後の晩餐	1981	115×340×260	布、椅子、机
18	ジェフリー・ヘンドリックス	1931-	二つのカンヴァスの面合わせ # 24	1967	101.5×76.3	アクリル・カンヴァス
■小企画 一平成 28 年度新収蔵作品から一						
19	田口安男	1930-	ある主題への変奏	1971	50×60	テンペラ・パネル
20	田口安男	1930-	ある主題への変奏 (下図)	1970頃		鉛筆・紙 等
21	田口安男	1930-	ぬけ変わりの季節	1977	120×91	テンペラ・パネル
22	田口安男	1930-	ぬけ変わりの季節 (下図)	1975	120×90	鉛筆・紙
23	田口安男	1930-	大渦時	1975	25×18.3	水彩・紙
24	田口安男	1930-	時よ歩め	1976	24.8×19.2	水彩・紙
25	田口安男	1930-	カスカな焔の気配	不詳	50×65.2	鉛筆、水彩・紙
26	田口安男	1930-	波から焔へ (下図)	1984	50×62.8	鉛筆、色鉛筆・紙
27	田口安男	1930-	白道一気一 (下図)	1992	56.3×76	鉛筆、水彩・紙
28	田口安男	1930-	波から焔へ	1983	200×400	油彩、テンペラ・カンヴァス
29	田口安男	1930-	マダランダラ手 (下図)	1986	65×88	鉛筆・紙
30	田口安男	1930-	マダランダラ手 (下図)	1986	65×88	鉛筆、水彩・紙
31	川島 清	1951-	作品 101	1989	151×95×6	鉛、鉄、鉛筆
32	川島 清	1951-	水量一ケヤキの根	2005	55×61×90	鉄、鉛、木、油土、ラバー
33	中谷 泰	1909-93	炭坑町	1956	91×100	油彩・カンヴァス
34	若松光一郎	1914-95	ズリ山雪景	1956	64×145.5	油彩・カンヴァス
35	若松光一郎	1914-95	熊坂太郎	1946	37.0×26.5	コンテ、水彩・紙
36	熊坂太郎	1910-92	鉱務所	不詳	18.8×25.4	鉛筆・紙
37	熊坂太郎	1910-92	石炭積込	1944	21×29.2	鉛筆、水彩・紙
38	熊坂太郎	1910-92	高倉山を望む	1944	20.9×25.4	鉛筆、水彩・紙
39	熊坂太郎	1910-92	住吉ボタ山	不詳	18.8×25.4	鉛筆、水彩・紙

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
40	熊坂太郎	1910-92	炭鉱風景（住吉変電所付近）	不詳	20.8×29.7	鉛筆、水彩・紙
41	熊坂太郎	1910-92	万石（石炭積込場）	不詳	29.3×38.1	鉛筆・紙
42	熊坂太郎	1910-92	ズリ山	不詳	26.7×37.3	鉛筆・紙
43	熊坂太郎	1910-92	選炭場	不詳	26.7×37.1	鉛筆・紙
44	熊坂太郎	1910-92	自画像	不詳	31.6×25.1	インク・紙
45	熊坂太郎	1910-92	保安係員	不詳	38.8×31.5	インク・紙
46	熊坂太郎	1910-92	坑内係員	不詳	29.2×20.6	インク、水彩・紙
47	熊坂太郎	1910-92	休息	不詳	25×36	鉛筆、水彩・紙

平成 29 年度常設展前期Ⅱ 出品リスト（平成 29 年 6 月 27 日～9 月 24 日）

■常設展へようこそ

1	アンディ・ウォーホル	1928-87	花 (No. 6～10)	1970	91.5×91.5	シルクスクリーン・紙
2	ロイ・リキテンスタイン	1923-97	二つの円のある近代絵画	1966	153×122	油彩・カンヴァス
3	ロイ・リキテンスタイン	1923-97	雄牛Ⅰ	1973	59.5×85.5	ラインカット・紙
4	ロイ・リキテンスタイン	1923-97	雄牛Ⅱ	1973	59.5×85.5	リトグラフ、ラインカット・紙
5	ロイ・リキテンスタイン	1923-97	雄牛Ⅲ	1973	59.5×85.5	リトグラフ、シルクスクリーン、ラインカット・紙
6	ロイ・リキテンスタイン	1923-97	雄牛Ⅳ	1973	59.5×85.5	リトグラフ、シルクスクリーン、ラインカット・紙
7	ロイ・リキテンスタイン	1923-97	雄牛Ⅴ	1973	59.5×85.5	リトグラフ、シルクスクリーン、ラインカット・紙
8	ロイ・リキテンスタイン	1923-97	雄牛Ⅵ	1973	59.5×85.5	リトグラフ、シルクスクリーン、ラインカット・紙
9	アラン・ダーカンジェロ	1930-	プロポジション # 5	1966	153×153	アクリル・カンヴァス
10	パトリック・コールフィールド	1936-	光沢のある陶器	1976	91.5×86	シルクスクリーン・紙
11	デイヴィッド・ホックニー	1937-	ジョーと緑の窓	1979	112.5×76.5	リトグラフ・紙
12	デイヴィッド・ホックニー	1937-	バラード	1981	203×101.5	シルクスクリーン・紙
13	セザール	1921-98	コンプレッション 2	1976	100.2×90.2	カードボード
14	アルマン	1928-05	ダマスカスの夫人の腰	1974	164×124×13	コントラバス、弓、コンクリート
15	イヴ・クライン	1928-62	火の絵画	1961	132×64	焦げた厚紙、板
16	クリスト	1935-	梱包された裸婦	1968	56×71.2	コラージュ(紙、ビニール、紐)
17	クリスト	1935-	Large valley curtain	1971	91.6×243.2	ドローイング、コラージュ・紙
18	草間彌生	1929-	Interminable Net No.1	1959	147.6×142	油彩・カンヴァス
19	草間彌生	1929-	最後の晩餐	1981	115×340×260	布、椅子、机
20	ジェフリー・ヘンドリックス	1931-	二つのカンヴァスの面合わせ # 24	1967	101.5×76.3	アクリル・カンヴァス

■小企画 ーいろいろかたちー

21	ヴィクトル・ヴァザルリ	1908-97	版画集『明晰』 1. Titlepage	1968	34.0×34.0	シルクスクリーン・紙
22	ヴィクトル・ヴァザルリ	1908-97	版画集『明晰』 4. Deuton	1970	47.0×40.6	シルクスクリーン・紙
23	ヴィクトル・ヴァザルリ	1908-97	T A V A S	1967-68	101×101	テンペラ・カンヴァス
24	ヴィクトル・ヴァザルリ	1908-97	C. T. A. - 103 - A	1965	160×160	油彩・カンヴァス
25	ブリジット・ライリー	1931-	オルフェウス悲歌Ⅰ	1978	140.5×130	アクリル・カンヴァス
26	ブリジット・ライリー	1931-	ラー	1981	240.7×205.3	油彩・カンヴァス
27	サム・フランシス	1923-94	赤い十字架	1981	76×64	モノタイプ・紙
28	ジョーン・ミッチェル	1926-92	紫色の木	1964	161.8×114	油彩・カンヴァス
29	ポール・ジェンキンス	1923-12	現象 野がちょうの叫び	1964	97.8×194	油彩・カンヴァス
30	ヘレン・フランケンサラー	1928-11	青い闘技場	1966	161×150.3	アクリル・カンヴァス
31	フランク・ステラ	1936-	ウリッド・スケッチ	1967	160.2×160.5	アクリル・カンヴァス
32	アル・ヘルド	1928-05	昇る金星	1963	178×122.5	アクリル・カンヴァス

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
33	エルズワース・ケリー	1923-15	ブラック	1964-65	89.5×60	リトグラフ・紙
34	エルズワース・ケリー	1923-15	イエロー	1964-65	89.5×60	リトグラフ・紙
35	エルズワース・ケリー	1923-15	ダーク・ブルーとレッド	1964-65	89.5×60	リトグラフ・紙
36	エルズワース・ケリー	1923-15	グリーンとレッド	1964-65	89.5×60	リトグラフ・紙
37	エルズワース・ケリー	1923-15	イエローの上にレッド	1964-65	89.5×60	リトグラフ・紙
38	エルズワース・ケリー	1923-15	ダーク・ブルーの上にイエロー	1964-65	89.5×60	リトグラフ・紙
39	エルズワース・ケリー	1923-15	グリーンの上にブルー	1964-65	89.5×60	リトグラフ・紙
40	エルズワース・ケリー	1923-15	ブルーの上にオレンジ	1964-65	89.5×60	リトグラフ・紙

平成 29 年度常設展後期 I 出品リスト (平成 29 年 9 月 26 日～ 12 月 24 日)

■美術のちから

1	三木富雄	1937-78	耳	不詳	49.8×143.1×12	アルミニウム
2	斎藤義重	1904-01	Work7	1958	90.7×121.3	油彩・合板
3	難波田龍起	1905-97	狂詩曲	1962	130×162	油彩、エナメル・カンヴァス
4	杉全 直	1914-94	眼	1960	101.5×144	油彩・カンヴァス
5	堂本尚郎	1928-13	1960-5	1960	133×99.5	油彩・カンヴァス
6	菅井 汲	1919-96	海・太陽	1966	200×160	油彩・カンヴァス
7	今井俊満	1928-02	鳴り響く嵐	1963	195×266	油彩・カンヴァス
8	元永定正	1922-11	作品	1961	183×137.5	エナメル、カンヴァス・合板
9	吉原治良	1905-72	作品	1966	185×230	油彩・カンヴァス
10	白髪一雄	1924-08	天殺星黒旋風李逵 <small>てんまつせいこくせんぶうり き</small>	1962	182.5×273	油彩・カンヴァス
11	田淵安一	1921-09	三元素一風、火、水 (3点組)	1961	風：195.2×169.8 火：195.7×140 水：195.5×140.3	油彩・カンヴァス
12	篠原有司男	1932-	モーターサイクル・クイーン	1975	192.5×217×110	カードボード、ポリエステル樹脂他
13	磯辺行久	1936-	Work62-11	1962	182×127.5	油彩、モルタル・木
14	工藤哲巳	1935-90	限定ブルーに於ける増殖性連鎖反応 <small>お ぞうしよくせいれん さ ほんのう</small>	1958	199×153×16	しゅろ縄、ビニールホース、木
15	菊畑茂久馬	1935-	植物図鑑二	1965	202.7×135×10	アクリル絵具、プラスチック、木・合板
16	中西夏之	1935-16	コンパクト・オブジェ	1962	15×15×23	ポリエステル樹脂、時計など
17	高松次郎	1936-98	影 (A)	1964	170×137×12	油彩、金具・合板

■小企画 一社会と美術一

18	池田龍雄	1928-	薄い顔 (化け物の系譜シリーズ)	1956頃	41.3×31.5	インク、木炭、水彩・紙
19	池田龍雄	1928-	面目乖離 <small>かいり</small>	1959頃	37.2×47.5	インク、木炭、水彩・紙
20	池田龍雄	1928-	無題 (街シリーズ)	1959	29×37.5	インク、コンテ・紙
21	坂爪厚生	1941-	風景'74 我ら兄弟たちⅡ	1974	48.8×62.5	メゾチント・紙
22	坂爪厚生	1941-	風景'74 我ら兄弟たちⅢ	1974	49.3×63.5	メゾチント・紙
23	秀島由己男	1934-	ヴェトナム	1974	22.2×11.5	メゾチント・紙
24	荒木高子	1921-04	原爆の証言	1983	23×43×35	陶
25	ヨゼフ・ボイス	1921-86	櫛 <small>きり</small>	1969	35×90×35	木、毛布、懐中電灯、脂肪、ベルト
26	アンゼラム・キーファー	1945-	イシス <small>イシス</small> Isis	1991	74×54×7	鉛、写真、合成樹脂、土、布、紙、陶磁器、銅線
27	三島喜美代	1932-	BOX-84-A	1984	96×123×87	シルクスクリーン・陶
28	川俣 正	1953-	コンストラクション・サイト・プロジェクト 「ノヴェ・デ・ジュルホ・カサパーヴァ」 ワーキングノート (2点)	1994	各62×87	ペン、インク、鉛筆・パネル

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
29	川俣 正	1953-	同 フォトドキュメント (3点)	1994	各62×87	ゼラチンシルバープリント・パネル
30	川俣 正	1953-	同 カラーフォトパネル	1994	150×100	チバクロームプリント・パネル
31	川俣 正	1953-	同 マケット	1994	315×420×40	ベニヤ材、バルサ材、アクリル絵具、コンテ、鉛筆
32	郭 徳俊	1937-	フォードと郭	1974	150×104	写真・パネル
33	郭 徳俊	1937-	カーターと郭	1977	150×104	写真・パネル
34	郭 徳俊	1937-	レーガンと郭	1981	150×104	写真・パネル
35	郭 徳俊	1937-	ブッシュと郭	1989	150×104	写真・パネル
36	郭 徳俊	1937-	クリントンⅡと郭	1997	150×104	写真・パネル

平成 29 年度常設展後期Ⅱ出品リスト (平成 29 年 12 月 26 日～平成 30 年 3 月 31 日)

■美術のちから

1	三木富雄	1937-78	耳	不詳	49.8×143.1×12	アルミニウム
2	斎藤義重	1904-01	Work7	1958	90.7×121.3	油彩・合板
3	難波田龍起	1905-97	狂詩曲	1962	130×162	油彩、エナメル・カンヴァス
4	杉全 直	1914-94	眼	1960	101.5×144	油彩・カンヴァス
5	堂本尚郎	1928-13	1960-5	1960	133×99.5	油彩・カンヴァス
6	菅井 汲	1919-96	海・太陽	1966	200×160	油彩・カンヴァス
7	今井俊満	1928-02	鳴り響く嵐	1963	195×266	油彩・カンヴァス
8	元永定正	1922-11	作品	1961	183×137.5	エナメル、カンヴァス・合板
9	吉原治良	1905-72	作品	1966	185×230	油彩・カンヴァス
10	白髪一雄	1924-08	天殺星黒旋風李遠	1962	182.5×273	油彩・カンヴァス
11	田淵安一	1921-09	三元素一風、火、水 (3点組)	1961	風：195.2×169.8 火：195.7×140 水：195.5×140.3	油彩・カンヴァス
12	篠原有司男	1932-	モーターサイクル・クイーン	1975	192.5×217×110	カードボード、ポリエステル樹脂他
13	磯辺行久	1936-	Work62-11	1962	182×127.5	油彩、モルタル・木
14	工藤哲巳	1935-90	限定ブルーに於ける増殖性連鎖反応	1958	199×153×16	しゅろ縄、ビニールホース、木
15	菊畑茂久馬	1935-	植物図鑑二	1965	202.7×135×10	アクリル絵具、プラスチック、木・合板
16	中西夏之	1935-16	コンパクト・オブジェ	1962	15×15×23	ポリエステル樹脂、時計など
17	高松次郎	1936-98	影 (A)	1964	170×137×12	油彩、金具・合板
18	増田聡子	1961-	K I N A - S i e g e n	1989	220×330	油彩、アクリル彩、リネン・パネル

■小企画 一版がひらく世界一

19	日和崎尊夫	1941-92	KALPA-68-A-1	1968	22.5×26	木口木版・紙
20	柄沢 齊	1950-	肖像Ⅳ アルチュール・ランボー	1982	19.5×14.5	木口木版・紙
21	柄沢 齊	1950-	肖像Ⅶ シャルル・ボードレール	1983	17.6×16	木口木版・紙
22	M. C. エッシャー	1898-72	昼と夜	1938	39.3×67.7	木版・紙
23	斎藤 清	1907-97	凝視 (B)	1957	75.5×44.5	木版・紙
24	斎藤 清	1907-97	慈愛 (G)	1982	44.2×60.3	木版・紙
25	斎藤 清	1907-97	地の幸	1989	46.2×61.3	木版・紙
26	ジャスパー・ジョーンズ	1930-	コートハンガーとスプーン	1971	86.5×64	リトグラフ・紙
27	ジャスパー・ジョーンズ	1930-	色数字 3	1969-70	96.5×78.5	リトグラフ・紙
28	ジャスパー・ジョーンズ	1930-	色数字 7	1969-70	96.5×78.5	リトグラフ・紙

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	たて×よこ×高さ(cm)	素材・技法
29	ロイ・リキテンスタイン	1923-97	スウィート・ドリームス・バイビィ	1965	95.6×70.2	シルクスクリーン・紙
30	アンディ・ウォーホル	1928-87	ジャッキー	1965	101.4×76.2	シルクスクリーン・紙
31	アンリ・マティス	1869-54	版画集「JAZZ」 1. ビエロの埋葬	1947	42×62	ステンシル・紙
32	アンリ・マティス	1869-54	同 11. 空中ブランコの曲芸師チーム	1947	42×64	ステンシル・紙
33	パブロ・ピカソ	1881-73	闘牛	1959	53.7×66.5	リノカット・紙
34	パブロ・ピカソ	1881-73	闘牛士と女と馬	1959	64.2×53.2	リノカット・紙
35	パブロ・ピカソ	1881-73	ランプの下の静物	1962	64×53	リノカット・紙
36	ジョアン・ミロ	1893-83	左に向かう	1968	62×101.2	アクアチント・紙
37	ローマン・オバルカ	1931-11	“333”	1969	59×49	エッチング・紙
38	ローマン・オバルカ	1931-11	アダムとイヴ	1968	59×49	エッチング・紙
39	中林忠良	1937-	T ransposition 転位・'79- III	1979	56×44.5	エッチング、アクアチント・紙
40	浜口陽三	1909-00	さくらんぼと青い鉢	1976	28 × 32	カラーメゾチント・紙
41	浜口陽三	1909-00	ぶどうの房	1969	52×24.1	カラーメゾチント・紙
42	長谷川潔	1891-80	メキシコの鳩	1966	26.2 × 35.3	メゾチント・紙
43	池田満寿夫	1934-97	ヴォーグから来た女	1966	40.5×44.2	ドライポイント・紙

レオナルド・フジタとモデルたち —— 素晴らしき乳白色の肌 ——

ヨーロッパ近代美術の歴史において最も成功した日本人芸術家と称されるレオナルド・フジタ（藤田嗣治 1886-1968）は、1913年にフランスに渡り、二つの大戦に挟まれた1920年代のパリで、「素晴らしき乳白色の肌」と称された独自の画風とオカッパ頭にロイドメガネという独特の風貌で一躍時代の寵児となった。

異郷の地であって、風景画や戦争画、壁画や挿絵本など多岐にわたる才能を発揮したフジタであるが、その底流には一貫して「日本人の独自性」、「人真似や模倣でない絵画」を希求する情熱があった。その情熱が彼の魅力となり、フジタの生涯は様々な人の出会いと別れに彩られ、その折々に新たなジャンルを切り拓いた。

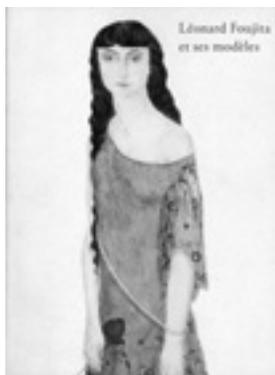
フジタ絵画の中心をなす人物表現を紐解こうとすると、これら親密な交友を辿ることは有効である。本展では、生涯に寄り添った5人の妻をはじめ、家族や親しい友人たち、また、美しいポーズの職業モデルや注文による肖像画なども含め、それらの人々に関連する資料をも交えて紹介することにより画家の生涯と芸術にアプローチしようとしたものである。

展覧会鑑賞の一助として開催した本展監修

者佐藤幸宏氏による講演会「フジタとモデルたち—乳白色の裸婦から群像表現へ」では、フジタの人物表現の集大成と言われる大作《構図・争闘》（4部作）に至るフジタの人物表現の変遷について、また、平野政吉美術館学芸員原田久美子氏が「藤田嗣治と東北」と題した講演会で秋田県立美術館所蔵の大壁画《秋田の行事》の詳細な解説を行い、多くの聴衆を集め好評を博した。

世界的な画家として一世を風靡しながら、日本へのやりきれない思いを残したまま異郷の地で生涯を閉じたフジタの波乱の人生を、作品に描かれたモデルたちとの関係から浮かび上がらせようとする本展の斬新な切り口は、鑑賞者の興味を大いに刺激したようである。

- 会 期 2017年4月15日(土)～5月28日(日)
休 館 日 毎週月曜日(5月1日は臨時開館)
開館時間 9:30～17:00(入場は16:30まで)
会 場 いわき市立美術館 企画展示室
主 催 いわき市立美術館、福島民友新聞社、福島中央テレビ、いわき民報社
特別協力 ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会
後 援 在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本
協 賛 日本貨物航空、日本航空
企画協力 株式会社キュレイターズ



作品リスト

No.	作家名	作品名	制作年	技法、素材	サイズ(cm)	所蔵
2	レオナルド・フジタ	フェルナンドとオウム	1917	水彩、紙	36×22	個人蔵(フランス)
3	レオナルド・フジタ	フェルナンドの肖像、画家の妻	1917	水彩、紙	22.4×15.4	個人蔵(フランス)
4	レオナルド・フジタ	チャーナ・オルロフの肖像	1915	クレヨン、紙	20.3×17.5	個人蔵(フランス)
5	レオナルド・フジタ	女の肖像(おそらくはジャンヌ・エビュテルス)	1916	水彩、墨、紙	17×13.5	個人蔵(フランス)
6	アメデオ・モディリアーニ	フジタの肖像	1919	鉛筆、紙	48.5×20	北海道立近代美術館
7	レオナルド・フジタ	断崖の若いカップル	1917	油彩、カンヴァス	73×92.4	ベルナルド・ビュフェ美術館
8	レオナルド・フジタ	家族	1917	水彩、紙	46.5×27	個人蔵(フランス)
9	レオナルド・フジタ	肖像(おそらくはモディリアーニとジャンヌ)	1917	水彩、紙	27.5×30.5	個人蔵 (アラン・ルシュートル)
10	レオナルド・フジタ	ダンス	1917	水彩、紙	27.5×30.5	個人蔵 (アラン・ルシュートル)
12	レオナルド・フジタ	カーニュ、シェロンへの手紙	1918	水彩、インク、紙	26×33.5	個人蔵(フランス)
14	レオナルド・フジタ	二人の女	1918	油彩、カンヴァス	92.2×73.3	北海道立近代美術館
15	レオナルド・フジタ	横たわる裸婦	1922	油彩、カンヴァス	72×115	ニーム市美術館
16	レオナルド・フジタ	横たわる女	1923	油彩、カンヴァス	50.5×61	個人蔵(フランス)
17	レオナルド・フジタ	横たわる裸婦	1927	油彩、カンヴァス	81×100	茨城県近代美術館
18	レオナルド・フジタ	ユキの肖像	1928	油彩、カンヴァス	33×24	個人蔵(フランス)
21	レオナルド・フジタ	胸抱く裸婦	1924	墨、水彩、紙	91×69	下関市立美術館
22	レオナルド・フジタ	二人の友達	1929	油彩、カンヴァス	81×54	DIC 川村記念美術館
23	レオナルド・フジタ	二人の裸婦	1930頃	エッチング、 ルーレット、紙	56×37.8	埼玉県立近代美術館
24	レオナルド・フジタ	立てる裸婦	1930頃	エッチング、 ルーレット、紙	56.6×37.8	埼玉県立近代美術館
25	レオナルド・フジタ	横たわる裸婦	1930頃	エッチング、 ルーレット、紙	37.5×56	埼玉県立近代美術館
26	レオナルド・フジタ	キキ・ド・モンバルナス	1928	鉛筆、紙	92×67	個人蔵(フランス)
28	レオナルド・フジタ	髪を梳く裸婦	1931	油彩、カンヴァス	40.8×33	DIC 川村記念美術館
30	レオナルド・フジタ	アンナ・ド・ノアイユの肖像	1926	油彩、カンヴァス	167.1×108.4	DIC 川村記念美術館
31	レオナルド・フジタ	山田キクの肖像	1926	絹本着色	50×27.5	個人蔵(フランス)
32	キク・ヤマタ著、レオナルド・フジタ挿画	『八景』	1927	木版	26.4×20.2	個人蔵(日本)
34	レオナルド・フジタ	ライオンのいる構図	1928	油彩、カンヴァス	300×300	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会
35	レオナルド・フジタ	犬のいる構図	1928	油彩、カンヴァス	300×300	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会
36	レオナルド・フジタ	争闘 I	1928	油彩、カンヴァス	300×300	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会
37	レオナルド・フジタ	争闘 II	1928	油彩、カンヴァス	300×300	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会
38	レオナルド・フジタ	弓矢を持つキュービッド	1924	鉛筆、トレーシング ペーパー	34.7×35	個人蔵(フランス)
39	レオナルド・フジタ	裸の子供の立像	1928	鉛筆、紙	74.5×29.5	下関市立美術館
40	レオナルド・フジタ	二人裸婦	1932	墨、紙	145.7×76.5	下関市立美術館
44	レオナルド・フジタ	闘士たち	1928	鉛筆、木炭、紙	128×123	個人蔵(フランス)
45	レオナルド・フジタ	倒れこむ巨人たち	1928	鉛筆、紙	92.5×147	個人蔵(フランス)
47	レオナルド・フジタ	横臥裸婦	1931	鉛筆、紙	47.8×60	秋田県立近代美術館
48	レオナルド・フジタ	裸婦立像	1931	鉛筆、紙	139.6×45.9	秋田県立近代美術館

No	作家名	作品名	制作年	技法、素材	サイズ(cm)	所蔵
49	レオナルド・フジタ	裸婦立像	1932	鉛筆、紙	140.1×42.6	秋田県立近代美術館
50	レオナルド・フジタ	猫と裸婦	1932	墨、紙	55.6×77.7	下関市立美術館
52	レオナルド・フジタ	裸婦	1932	鉛筆、紙	35×50.5	秋田県立近代美術館
53	レオナルド・フジタ	横たわるマドレーヌ	1934	水彩、紙	41×52.5	個人蔵(フランス)
55	レオナルド・フジタ	五人女	1935	油彩、カンヴァス	192.5×128.5	公益財団法人平野政吉美術財団
56	レオナルド・フジタ	一九〇〇年	1937	油彩、カンヴァス	144×110.5	公益財団法人平野政吉美術財団
57	レオナルド・フジタ	踊子	1939	油彩、カンヴァス	79×64	公益財団法人平野政吉美術財団
58	レオナルド・フジタ	私の夢	1947	油彩、カンヴァス	65.5×100	新潟県立近代美術館・万代島美術館
60	レオナルド・フジタ	三人裸婦	1930	油彩、カンヴァス	142.5×124.6	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンス県議会
61	レオナルド・フジタ	ペルーの子供	1932	水彩、紙	37×25.8	アルトラスト(スイス)
62	レオナルド・フジタ	メキシコの女性たち	1933	水彩、紙	60×59	個人蔵(フランス)
64	ジャン・コクトー著、 レオナルド・フジタ挿画	『海龍』	1955	銅版画	35.5×27.2	個人蔵(日本)
65	レオナルド・フジタ	北平の力士	1935	油彩、カンヴァス	180.9×225.4	公益財団法人平野政吉美術財団
66	レオナルド・フジタ	北京の素描	1934	鉛筆、紙	38.8×28.7	公益財団法人平野政吉美術財団
67	レオナルド・フジタ	北京の素描	1934	鉛筆、紙	38×29	公益財団法人平野政吉美術財団
68	レオナルド・フジタ	北京の素描	1934	鉛筆、紙	37.8×28.7	公益財団法人平野政吉美術財団
69	レオナルド・フジタ	北京の素描	1934	鉛筆、紙	37.8×27.7	公益財団法人平野政吉美術財団
70	レオナルド・フジタ	サハラ、テーブルを囲んで	1951	インク、紙	23×35	アルトラスト(スイス)
71	レオナルド・フジタ	サハラ、人物習作	1951	インク、紙	25×32	アルトラスト(スイス)
72		「時代の証人の画家たち」展 カタログ	1955-60	5冊 (第4回展、 第5回展、第6回展、 第7回展、第9回展)		個人蔵(日本)
73	レオナルド・フジタ	ジャン・ロスタンの肖像	1955	油彩、カンヴァス	100×81	カルナヴァレ博物館
74	レオナルド・フジタ	カルチエ・ラタンのピストロ	1958	油彩、カンヴァス	97.5×156	カルナヴァレ博物館
75	レオナルド・フジタ	誰と戦いますか？	1957	油彩、カンヴァス	130×195	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンス県議会
76- 82	レオナルド・フジタ	《誰と戦いますか？》下絵(1) - (7)	1957	鉛筆、紙		ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンス県議会
83	レオナルド・フジタ	座るモデルによる習作	1949	青鉛筆、紙	65×50	アルトラスト(スイス)
86	レオナルド・フジタ	花の洗礼	1959	油彩、カンヴァス	130.5×97.5	パリ市立近代美術館
89	レオナルド・フジタ	衝立	1955	木、布、金属	181×133×5	ミュゼ・メゾン＝アトリエ・フジタ、エソンス県議会
90	レオナルド・フジタ	礼拝	1962-63	油彩、カンヴァス	114.8×147	パリ市立近代美術館
91	レオナルド・フジタ	シャツのボタンをかけるベルナル の肖像	1950	インク、紙	36.2×24.8	個人蔵(フランス)
92	レオナルド・フジタ	ベルナルの肖像	1950	インク、紙	21.5×15.5	個人蔵(フランス)
93	レオナルド・フジタ	ベルナルの肖像、思い出	1950	インク、紙	21×17	個人蔵(フランス)
94	レオナルド・フジタ	ニコルの肖像	1958	インク、紙	32×24	個人蔵(フランス)
95	レオナルド・フジタ	ニコルの肖像(習作)	1958	鉛筆、紙	25×16	アルトラスト(スイス)
96	レオナルド・フジタ	小さな職業人たち	1960	木版、紙(59/261)		茨城県近代美術館
97	レオナルド・フジタ	猫のいる自画像	1927頃	油彩、カンヴァス	54.3×45.5	三重県立美術館

No	作家名	作品名	制作年	技法、素材	サイズ(cm)	所蔵
98	レオナルド・フジタ	猫のいる自画像	1927	ドライポイント、紙 (ルーヴル美術館銅 版画工房版)	45.5×35	個人蔵(日本)
101	レオナルド・フジタ	赤の自画像	1954	油彩、カンヴァス	15.5×11	個人蔵(フランス)
102	レオナルド・フジタ	青の自画像	1954	油彩、カンヴァス	18×13	個人蔵(フランス)

関連資料

フランク・シャーマン旧蔵コレクション
個人蔵/伊達市教育委員会寄託、NPO法人噴火湾アートビレッジ(管理)

番号 資料名

- 1 雑誌切り抜き：フジタとフジタ像
- 2 写真：藤田嗣章と藤田嗣治
- 3 雑誌記事「現代の顔：モンパルナスのフジタ」
- 4 写真：ポーズするフジタ
- 5 雑誌記事「日本人画家、パリ女性への賛歌」
- 6 写真：チェックのブラウスを着るマドレーヌ

番号 資料名

- 7 雑誌記事「私のカメラ・私の旅」メキシコ、ボリビア、ペルー
- 8 新聞記事(モンパルナスのアパルトマン)
- 9 雑誌記事(キキの訃報)
- 10 反転写真「東京のアトリエにて、ある日本人芸術家」
- 11 藤田の愛用の眼鏡とケース
- 12 藤田嗣治の像(フランク・シャーマン刻?)とケース

アトリエに残されたオブジェ(絵皿ほか)
ミュゼ・メゾン=アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会

番号 資料名

番号	資料名	制作年	材質	サイズ(cm)
1	皿(猫と牛)	1958	マドゥーラ製	3.0 × 20.8(φ)
2	皿(猫の聖母子)	1958	マドゥーラ製	3.0 × 20.8(φ)
3	ワイングラス(ワニ)	1959	磁器	9.5 × 6.8(φ)
4	ワイングラス(象)	1959	磁器	9.5 × 6.8(φ)
5	ワイングラス(猫)	1959	磁器	9.5 × 6.8(φ)
6	装飾皿(自転車に乗る猫)	1947-48	磁器	3.2 × 23.2(φ)
7	装飾皿(浴室の猫)	1947-48	磁器	3.2 × 23.4(φ)
8	装飾皿(背中を向けた天使とハート)	1947	磁器	2.5 × 17.5(φ)
9	装飾皿(ブーケを持つ手)	1947	磁器	2.5 × 17.5(φ)
10	装飾皿(帽子をかぶった女性)	1947	磁器	2.8 × 24.8(φ)
11	装飾皿(天使)	1947	磁器	2.5 × 17.5(φ)
12	装飾皿(天使)	1947	磁器	3.2 × 23.4(φ)
13	小鉢(子供)	1950 頃	陶磁器	3.6 × 12.0(φ)
14	小鉢(猫)	1950 頃	陶磁器	4.0 × 12.5(φ)
15	装飾木箱	1958	木製	32.0 × 25.0 × 16.0
16	装飾木箱	1961	木製	26.0 × 26.0 × 16.5
17	装飾木箱	1965	木製	23.5 × 23.5 × 12.5
18	装飾木箱	1964	木製	11.0 × 11.0 × 6.0
19	花瓶	1958	陶磁器	27.5 × 21.5(φ)
20	装飾木箱	1961	木製	20.3 × 29.5 × 4.5
21	皿(赤の横顔/青の横顔)	1940 頃	陶磁器	5.0 × 18.0(φ)/5.0 × 18.0(φ)

藤田嗣治資料(ジャン・コクトーからの書簡、写真など)
東京藝術大学

番号 資料名

番号	資料名	制作年	材質
1	コクトーからの書簡(封書)	1955.08.12	便箋
2	ジャン・ロスタン書簡	1955.12.30	便箋
3	ジャン・ロスタン夫妻の名刺	1965.12.28	カード
4	ジャン・ロスタンからのグリーティングカード(ドガ)	年代不詳	カード

番号	資料名	制作年	材質
5	藤田と鶴田登美子 [最初の妻]	1912	写真
6	藤田と鶴田登美子 [最初の妻]、親戚の少年	1912 頃	写真
7	藤田とジャン・コクトー	1936	写真
8	『文藝』を持つ藤田と人形を持ったコクトー	1936	写真
9	藤田(プロマイド?)	1930-1939 頃	写真
10	藤田(プロマイド?)	1930-1939 頃	写真
11	藤田(プロマイド?)	1930-1939 頃	写真
12	藤田(写真スタジオで撮影?)	1951.11	写真
13	女性モデルを前に絵を描く藤田 9点の写真	1953.6.24	写真
14	作品の前で描かれたのと同じポーズをとる藤田と男性	1950.3.24	写真
15	ジャン・ロスタンと藤田/ジャン・ロスタンを描くフジタ 2点の写真	1955.10.29	写真
16	《ジャン・ロスタンの肖像》(1955年)展示会場の藤田と人々 2点の写真	1956.03-05	写真
17	藤田と作品《誰と戦います?》	1957 以後	写真
18	《誰と戦います?》展示会場の藤田 3点の写真	1957 以後	写真
19	作品《猫の教室》(1949)の前の藤田とジャン・コクトー 2点の写真	1949 以後	写真
20	《メキシコに於けるマドレーヌ》	1934	写真
21	《自画像(君代と父の肖像)》	1954	写真
22	《誰と戦いますか?》デッサン習作 2点の写真	1957 以前	写真
23	《誰と戦いますか?》5点の写真、カラー、モノクロ、セピアの3種	1957	写真
24	モディリアアーニ《藤田の肖像》	1919	写真

藤田嗣治収集品(土偶など)
(公財)平野政吉美術財団

番号	資料名	材質	サイズ(cm)	番号	資料名	材質	サイズ(cm)
1	土偶(頭部)	土製品	1.9 × 2.1 × 3.0	27	石製品	石(フリント)	5.0 × 6.2 × 1.8
2	土偶(頭部)	土製品	2.2 × 1.9 × 3.6	28	石製品	石(フリント)	3.2 × 6.2 × 2.9
3	土偶(頭部)	土製品	1.8 × 1.8 × 2.8	29	石製品	石	1.0 × 4.0 × 3.3
4	土偶(頭部)	土製品	1.9 × 2.6 × 3.5	30	石製品	石	4.1 × 8.6 × 4.5
5	土偶(頭部)	土製品	2.2 × 3.4 × 3.7	31	石製品	石	2.8 × 7.9 × 3.2
6	土偶(頭部)	土製品	1.9 × 2.1 × 3.6	32	石製品	石	2.3 × 3.4 × 4.0
7	土偶(頭部)	土製品	2.2 × 5.1 × 5.3	33	ペルー盆	木・彩色	27.2 × 13.1 × 3.8
8	土偶(頭部)	土製品	1.0 × 3.2 × 3.3	34	ペルー民芸灰皿	石膏・彩色	口径 10.4 × 4.8
9	土偶(頭部)	土製品	2.2 × 3.1 × 3.7	35	ペルー火打金具	革、金属	5.0 × 12.4 × 1.7
10	土偶(頭部)	土製品	2.2 × 3.5 × 3.3	36	ペルー笛	陶器	3.6 × 5.9 × 7.3
11	土偶(頭部)	土製品	1.8 × 2.5 × 2.9	37	ペルー笛	陶器	3.5 × 7.5 × 7.0
12	土偶(頭部)	土製品	3.4 × 1.6 × 3.4	38	パイプ	木	1.9 × 4.6 × 8.5
13	土偶(頭部)	土製品	2.9 × 2.4 × 2.0	39	ペルー鈴	陶器	直径 8.0 × 9.7
14	土偶(頭部)	土製品	2.2 × 2.2 × 3.0	40	中南米仮面	粘土・彩色	18.5 × 16.7 × 7.6
15	土偶(頭部)	土製品	2.9 × 3.5 × 2.4	41	中南米仮面	粘土・彩色	19.0 × 16.4 × 10.3
16	岩偶	石製品(緑色凝灰岩)	2.0 × 3.5 × 7.1	42	ペルー土偶	土製品	8.3 × 8.2 × 7.2
17	岩偶	石製品(緑色凝灰岩)	1.4 × 2.2 × 5.8	43	ペルー土偶	土製品	4.3 × 6.0 × 9.8
18	岩偶	石製品	3.4 × 5.6 × 10.5	44	ペルー土偶	土製品	6.6 × 9.1 × 12.2
19	岩偶	石製品(緑色凝灰岩)	4.4 × 6.2 × 15.5	45	ペルー土偶	土製品・彩色	5.2 × 13.4 × 19.4
20	岩偶	石製品	3.4 × 4.5 × 7.2	46	ペルー玩具	土製品・素焼き	2.6 × 4.6 × 10.0
21	岩偶	石製品	4.7 × 7.4 × 8.5	47	ペルー玩具	土製品・素焼き	3.3 × 4.3 × 9.1
22	石製品	石(フリント)	1.8 × 1.9 × 5.2	48	ペルー玩具	陶器	8.5 × 2.6 × 8.3
23	石製品	石(フリント)	1.8 × 1.9 × 6.2	49	ペルー玩具	土製品、植物・素焼き、彩色	2.8 × 3.2 × 13.1
24	石製品	石(フリント)	2.4 × 2.7 × 5.6	50	ペルー玩具	土製品、植物・素焼き、彩色	3.0 × 4.7 × 12.0
25	石製品	石(フリント)	2.9 × 2.0 × 2.6	51	ペルー玩具	土製品・素焼き、彩色	3.4 × 4.8 × 16.8
26	石製品	石(フリント)	3.0 × 2.1 × 0.8				

鴫田家資料(結納目録、絵葉書など)

個人蔵(日本)

番号	資料名
1	結納目録(藤田嗣章から鴫田友七宛) 1910(明治43)年10月10日
2	家族書・親類書
3	花器(結納で使用されたもの)
4	雑記帳(家計簿兼英語練習帳)
5	写真:とみと女性2人(大武丈夫撮影)
6	葉書アルバム(折帳)
7	絵葉書:とみよりフジタ宛(未投函) 表:高倉観崖《鴨川の春》 1915(大正4)年2月1日 とみより
8	絵葉書:とみよりフジタ宛(未投函) 表:成田名勝鐘楼 1915(大正4)年 初春
9	国立オペラ座「ファウスト」プログラム、1914年1月21日
10	オペラ・コミック座「ラ・トスカ」プログラム、1914年2月15日
11	『シフォン』誌、1914年2月1日号
12	『フェミナ』誌、1914年2月15日号
13	『ル・ミロワール』誌、1914年3月1日号
14	『ル・ミロワール』誌、1914年3月8日号
15	『フェミナ』誌、1914年4月1日号
16	『フェミナ』誌、1914年5月1日号
17	『イリュストラシオン』誌、1914年5月2日号
18	写真:フジタ 1914(大正3)年12月
19	写真:かまどのフジタ 1914(大正3)年7月
20	絵葉書:フジタからとみ宛 1913(大正2)年10月12日 バリ
21	書簡:フジタからとみ宛 1913(大正2)年10月26日 バリ
22	書簡:フジタからとみ宛 1913(大正2)年11月10日 バリ
23	書簡:フジタからとみ宛 1913(大正2)年12月10日 バリ
24	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年1月10日 バリ
25	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年1月24日 バリ
26	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年2月27日 バリ (写真6点、押花1点)
27	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年3月11日 バリ
28	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年3月21日 バリ (絵葉書4点)
29	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年4月22日 バリ (絵葉書6点)
30	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年5月29日 モンフィ ルメイユ(押花1点)
31	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年8月7日 モンフィ ルメイユ(絵葉書6点)
32	書簡:フジタからとみ宛 1914(大正3)年9月14日 バリ (写真2点)
33	書簡:フジタからとみ宛 1915(大正4)年2月10日 バリ (写真3点)
34	書簡:フジタからとみ宛 1915(大正4)年3月13日 バリ (写真5点)
35	書簡:フジタからとみ宛 1915(大正4)年3月27日 バリ (写真8点)

番号	資料名
36	書簡:フジタからとみ宛 1915(大正4)年4月17日 バリ (写真10点)
37	書簡:フジタからとみ宛 1915(大正4)年7月10日 マルザッ ク(写真1点、絵葉書1点、使用済みの切手3点)
38	書簡:フジタからとみ宛 1915(大正4)年8月5日 マルザッ ク(写真5点、押花2点)
39	書簡:フジタからとみ宛 1916(大正5)年10月2日 ロンド ン(写真2点)

デイヴィッド・ホックニー版画展

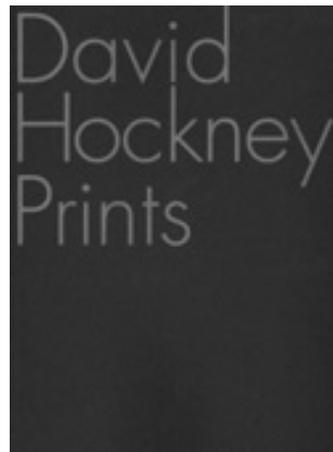
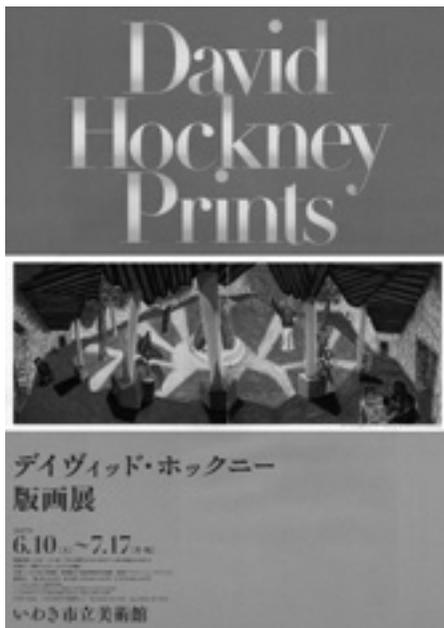
絵画、版画、写真、舞台美術など多岐にわたる分野で活躍するイギリス出身の美術家デイヴィッド・ホックニー(1937-)の版画展。ホックニーは10代の頃より継続的に版画を手がけており、身近な人々や風景、自伝的なエピソードやピカソへのオマージュなどをテーマに、明るい色彩にあふれたウィットに富む作品を数多く制作してきた。アメリカのロサンゼルスに活動拠点を移して以降は、クロムランクやタイラーら有名刷師とともに新たな版画技法に挑戦するほか、近年ではファクシミリやカラーコピー、コンピューターを用いた斬新な手法を開拓している。

本展は、国内最大のホックニー版画コレク

ションを誇る東京都現代美術館の所蔵品を中心に、郡山市立美術館、町田市立国際版画美術館の作品を加えて構成。休館中の東京都現代美術館からはさらにアクリル絵画の優品《スプリンクラー》(1967年)を借用し、最初期から近年までの版画129点とともに展示し、当館収蔵作家でもあるホックニーの卓越した技術と魅力を紹介した。

会期中は、齊藤泰嘉氏(元筑波大学教授)による講演会を開催。また、版画家の小森琢己氏(武蔵野美術大学通信教育課程非常勤講師)を招き、ホックニーが多数手がけたリトグラフの技法を学ぶ公開制作と実技講座を実施し、好評を得た。

会 期 2017年6月10日(土)～7月17日(月・祝)
会 場 いわき市立美術館 企画展示室
主 催 いわき市立美術館
特別協力 東京都現代美術館
後 援 ブリティッシュ・カウンシル



作品リスト

No.	作品名	制作年 (西暦)	技法 (版材)	サイズ (paper)	サイズ (plate)	所蔵先
	『放蕩者の遍歴』(全16点)	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)			郡山市立美術館
1	到着 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
2	遺産を相続する 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
3	善良な人との出会い 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
4	ゴズベルを歌う(善良な人)、マディ ソン・スクエア・ガーデンにて 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
5	浪費の始まり 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
6	45kgの弱虫 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
7	酒場 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
8	オールドミスとの結婚 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
9	選挙運動 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
10	牢獄を眺める 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
11	ハーレムでの死 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
12	財布が空になっていく 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
13	分裂 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
14	排除される 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
15	別の人々に会う 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
16	精神病院 『放蕩者の遍歴』より	1961-63	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	49.0×61.0	30.0×40.0	郡山市立美術館
17	催眠術師	1963	エッチング、アクアチント(1枚の亜鉛版)	65.0×57.0	50.0×50.0	東京都現代美術館
18	『C. P. カヴァフィの14編の詩 のための挿絵』(全12点)	1966-67	エッチング、アクアチント・本	63.5×50.5		東京都現代美術館
19	カヴァフィの肖像 II ※『C. P. カヴァフィの14編の詩の ための挿絵』エディションAに添 えられたサイン入り作品	1966-67	エッチング、アクアチント(1枚の銅版)	47.0×33.0	36.0×23.0	東京都現代美術館
20	『6つのグリム童話のための挿絵』	1969	エッチング、アクアチント・本	45.5×31.0		東京都現代美術館
21	ひとつ窓の塔 『6つのグリム童話のための挿絵』 より	1969	エッチング、アクアチント(1枚の銅版)	45.5×31.0	33.5×15.0	東京都現代美術館
22	城の内部 『6つのグリム童話のための挿絵』 より	1969	エッチング、アクアチント(1枚の銅版)	45.5×31.0	25.5×26.3	東京都現代美術館
23	冷たい水が王子を襲う 『6つのグリム童話のための挿絵』 より	1969	エッチング、アクアチント(1枚の銅版)	45.5×31.0	38.5×27.0	東京都現代美術館

No.	作品名	制作年 (西暦)	技法 (版材)	サイズ (paper)	サイズ (plate)	所蔵先
24	リンクランクじいさんが王女を襲う 『6つのグリム童話のための挿絵』より	1969	エッチング、アクアチント (1枚の銅版)	45.5×31.0	23.0×26.8	東京都現代美術館
25	黄金 『6つのグリム童話のための挿絵』より	1969	エッチング (1枚の銅版)	45.5×31.0	34.3×26.0	東京都現代美術館
26	自分を二つに裂く 『6つのグリム童話のための挿絵』より	1969	エッチング、アクアチント (1枚の銅版)	45.5×31.0	44.7×32.4	東京都現代美術館
27	画学生・ピカソ賛	1973	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 リフトグラウンド・エッチング (1枚の銅版)	75.5×56.5	57.5×44.0	東京都現代美術館
28	画家とモデル	1973-14	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 リフトグラウンド・エッチング (1枚の銅版)	75.5×57.0	57.5×44.0	東京都現代美術館
29	単純化された顔 (第1ステート)	1973	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング (3 枚の銅版)	55.5×50.0	33.8×33.0	東京都現代美術館
30	単純化された顔 (第2ステート)	1974	エッチング (5色)、ソフトグラウンド・エッ チング (3枚の銅版)	55.5×50.0	33.8×33.0	東京都現代美術館
	『ブルー・ギター』(全20点)	1976-77		46.0×53.0		東京都現代美術館
31	ブルー・ギター、扉絵 『ブルー・ギター』より	1976-77	ソフトグラウンド・エッチング、アクアチン ト (2枚の銅版)	53.0×46.0	42.5×34.5	東京都現代美術館
32	老いたギタリスト 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、アクアチント (2枚の銅版)	53.0×46.0	42.5×34.5	東京都現代美術館
33	旋律 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
34	道を選ぶ 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
35	フランコ・アメリカン・メール 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
36	バラード 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	53.0×46.0	42.5×34.5	東京都現代美術館
37	大袈裟な不一致 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
38	ブルー・ギターのうなり 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング (2 枚の銅版)	53.0×46.0	42.5×34.5	東京都現代美術館
39	明暗法で 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
40	静物と人物 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 ドライポイント (2枚の銅版)	53.0×46.0	42.5×34.5	東京都現代美術館
41	4月生まれ 『ブルー・ギター』より	1976-77	ソフトグラウンド・エッチング、アクアチン ト (2枚の銅版)	53.0×46.0	42.5×34.5	東京都現代美術館
42	僕たち自身の絵画 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
43	詩人 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
44	エッチングが主題 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
45	がつんごつんと打ち据えて、 本来の姿へと帰すのだ 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	53.0×46.0	42.5×34.5	東京都現代美術館
46	ものは私が奏でるままに 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
47	そこに彼の眼差しはとどまる 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
48	動き出す静物 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
49	セレナーデ 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (2枚の銅版)	53.0×46.0	34.5×42.5	東京都現代美術館

No.	作品名	制作年 (西暦)	技法 (版材)	サイズ (paper)	サイズ (plate)	所蔵先
50	このピカソは何？ 『ブルー・ギター』より	1976-77	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント（2枚の銅版）	46.0×53.0	34.5×42.5	東京都現代美術館
51	スプリングラー	1967	アクリル／カンヴァス	125.8×123.8		東京都現代美術館
52	スイミング・プールに流れこむ水、 サンタモニカ	1964	リトグラフ（1枚の石版、3枚の亜鉛版、 クレヨン、解墨）	51.0×66.0		東京都現代美術館
53	凝った銀の額に入った静物画 『ハリウッド・コレクション』より	1965	リトグラフ（2枚の石版、5枚のアルミニ ウム版、クレヨン、解墨）	76.8×56.5		東京都現代美術館
54	凝った金の額に入った風景画 『ハリウッド・コレクション』より	1965	リトグラフ（2枚の石版、4枚のアルミニ ウム版、クレヨン、解墨）	76.8×56.5		東京都現代美術館
55	銀の額に入った肖像画 『ハリウッド・コレクション』より	1965	リトグラフ（2枚の石版、3枚のアルミニ ウム版、クレヨン、解墨）	76.8×56.5		東京都現代美術館
56	飾りのある金の額に入ったメル ローズ通りの風景画 『ハリウッド・コレクション』より	1965	リトグラフ（2枚の石版、4枚のアルミニ ウム版、クレヨン、解墨）	76.8×56.5		東京都現代美術館
57	簡素な額に入った伝統的な裸婦素描 『ハリウッド・コレクション』より	1965	リトグラフ（2枚の石版、2枚のアルミニ ウム版、クレヨン、解墨）	76.8×56.5		東京都現代美術館
58	ガラス付きの額に入った無意味な 抽象画 『ハリウッド・コレクション』より	1965	リトグラフ（2枚の石版、4枚のアルミニ ウム版、クレヨン、解墨）	76.8×56.5		東京都現代美術館
59	稲妻の習作（小）	1973	リトグラフ（3枚の石版）	50.8×40.6		東京都現代美術館
60	稲妻の習作（中）	1973	リトグラフ（3枚の石版、1枚のアルミニ ウム版）	76.2×55.9		東京都現代美術館
61	太陽 『ウェザー・シリーズ』より	1973	リトグラフ（3枚の石版、4枚のアルミニ ウム版）、スクリーンプリント（1枚）	94.6×77.8		東京都現代美術館
62	雨 『ウェザー・シリーズ』より	1973	リトグラフ（3枚の石版、1枚のアルミニ ウム版）、スクリーンプリント（2枚）	99.0×80.3		東京都現代美術館
63	霧 『ウェザー・シリーズ』より	1973	リトグラフ（1枚の石版、4枚のアルミニ ウム版）	94.0×81.3		東京都現代美術館
64	稲妻 『ウェザー・シリーズ』より	1973	リトグラフ（2枚の石版）、スクリーンプリ ント（2枚）	99.6×80.3		東京都現代美術館
65	雪 『ウェザー・シリーズ』より	1973	リトグラフ（6枚の石版、1枚のアルミニ ウム版）、スクリーンプリント（2枚）	101.6×85.0		東京都現代美術館
66	風 『ウェザー・シリーズ』より	1973	リトグラフ（3枚の石版、5枚のアルミニ ウム版）、スクリーンプリント（3枚）	101.6×78.7		東京都現代美術館
67	ボラボラ	1979	リトグラフ（5枚のアルミニウム版）	87.6×121.9		東京都現代美術館
68	緑のボラボラ	1979	リトグラフ（2枚のアルミニウム版）	88.9×106.7		東京都現代美術館
69	切花の入った2つの花瓶と観葉 植物	1979	リトグラフ（4枚のアルミニウム版、クレ ヨン、解墨）	106.7×149.9		東京都現代美術館
70	午後のスイミング	1980	リトグラフ（8枚のアルミニウム版）	80.6×100.3		東京都現代美術館
71	水のリトグラフ（太線、細線、 緑とライト・ブルーとダーク・ ブルーの淡彩）	1978-80	リトグラフ（4枚の石版、3枚のアルミニ ウム版）	66.0×87.6		東京都現代美術館
72	水のリトグラフ（線）	1978	リトグラフ（1枚の石版、1枚のアルミニ ウム版）	66.0×87.6		東京都現代美術館
73	水のリトグラフ（線、緑の淡彩）	1978-80	リトグラフ（2枚の石版、1枚のアルミニ ウム版）	66.0×87.6		東京都現代美術館
74	水のリトグラフ（線、緑とライト ブルーの淡彩）	1978-80	リトグラフ（2枚の石版、3枚のアルミニ ウム版）	66.0×87.6		東京都現代美術館
75	水のリトグラフ（線、2種類のラ イトブルーの淡彩）	1978-80	リトグラフ（2枚の石版、3枚のアルミニ ウム版）	66.0×87.6		東京都現代美術館
76	水のリトグラフ（太線、細線、2 種類のライトブルーの淡彩）	1978-80	リトグラフ（3枚の石版、3枚のアルミニ ウム版）	66.0×87.6		東京都現代美術館

No.	作品名	制作年 (西暦)	技法 (版材)	サイズ (paper)	サイズ (plate)	所蔵先
77	水のリトグラフ (太線、細線、ライトブルー、ダークブルーの淡彩)	1978-80	リトグラフ (3枚の石版、3枚のアルミニウム版)	66.0×87.6		東京都現代美術館
78	紙と青いインクによるプール	1980	リトグラフ (3枚の石版、3枚のアルミニウム版)	26.7×22.9		東京都現代美術館
79	ホテル・アカトラン、第1日	1984	リトグラフ (43枚のアルミニウム版)	73.0×189.2 (2 panels)		東京都現代美術館
80	ホテル・アカトラン、第2日	1984	リトグラフ (48枚のアルミニウム版)	73.0×193.0 (2 panels)		東京都現代美術館
81	ホテル・アカトラン、2週間後	1985	リトグラフ (41枚のアルミニウム版)	73.0×188.0 (2 panels)		東京都現代美術館
82	ホテルの井戸の眺め I	1984-85	リトグラフ (16枚のアルミニウム版)	79.4×105.4		東京都現代美術館
83	ホテルの井戸の眺め III	1984-85	リトグラフ (24枚のアルミニウム版)	123.2×97.8		東京都現代美術館
84	20歳の頃の母 (写真より) -ギュスターヴ・フローベールの『純 な心』のフェリシテのための習作	1973	エッチング、アクアチント (1枚の銅版)	28.0×23.5	20.0×16.0	東京都現代美術館
85	母とおうむ	1973	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (3枚の銅版)	65.5×50.0	23.5×21.5	東京都現代美術館
86	この頃の母 -ギュスターヴ・フローベールの『純 な心』のフェリシテのための習作	1974	エッチング (1枚の銅版)	38.0×28.5	17.8×11.8	東京都現代美術館
87	おうむのそばで眠るフェリシテ -ギュスターヴ・フローベールの『純 な心』のフェリシテのための習作	1974	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 アクアチント (3枚の銅版)	38.0×42.0	22.0×23.5	東京都現代美術館
88	ジョン・ホックニー	1980	リトグラフ (1枚のアルミニウム版、解墨)	40.6×38.1		東京都現代美術館
89	グレゴリー	1974	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング (2枚の銅版)	91.0×71.0	68.5×54.5	東京都現代美術館
90	横たわる人	1975	エッチング、リフトグラウンド・エッチング (1枚の銅版)	45.5×49.5	34.5×39.5	東京都現代美術館
91	グレゴリーの小さな頭部	1976	リトグラフ (1枚の石版、クレヨン)	26.4×24.1		東京都現代美術館
92	ビリー・ワイルダー	1976	リトグラフ (1枚の石版、2枚のアルミニウム版、クレヨン)	96.5×71.1		東京都現代美術館
93	ドナルド・クリップ	1976	リトグラフ (1枚の石版、クレヨン)	43.2×27.9		東京都現代美術館
94	ピーター・シュレシンガー	1976	リトグラフ (1枚の石版、クレヨン)	40.6×29.8		東京都現代美術館
95	クリストファー・イシャウッド とドン・バカーディ	1976	リトグラフ (2枚のアルミニウム版、クレ ヨン)	72.4×95.2		東京都現代美術館
96	腰掛けたヘンリーとチューリップ	1976	リトグラフ (2枚の石版、3枚のアルミニ ウム版、クレヨン、解墨)	105.7×72.7		東京都現代美術館
97	テーブルのヘンリー	1976	リトグラフ (2枚の石版、1枚のアルミニ ウム版、クレヨン、解墨)	72.7×105.7		東京都現代美術館
98	コミッションナー	1979	リトグラフ (1枚のアルミニウム)	40.6×50.8		東京都現代美術館
99	髪をとくアン、もう一つの作品	1979	リトグラフ (1枚のアルミニウム版、クレ ヨン、解墨)	124.5×91.4		東京都現代美術館
100	髪をとくアン	1979	リトグラフ (2枚のアルミニウム版、クレ ヨン、解墨)	59.7×80.0		東京都現代美術館
101	みつめるシーリア	1976	エッチング、ソフトグラウンド・エッチング、 リフトグラウンド・エッチング、アクアチン ト (3枚の銅版)	91.5×74.9	68.0×54.1	町田市立国際版画 美術館
102	シーリア#2 (大)	1981	リトグラフ (2枚のアルミニウム版、解墨)	133.4×146.1		東京都現代美術館
103	赤いシーリア	1984	リトグラフ (4枚のアルミニウム版)	76.2×54.6		東京都現代美術館
104	緑の帽子を被ったシーリア	1984	リトグラフ (13枚のアルミニウム版)	76.2×55.9		東京都現代美術館

No.	作品名	制作年 (西暦)	技法 (版材)	サイズ (paper)	サイズ (plate)	所蔵先
105	シーリアのイメージ	1984	リトグラフ (33 枚のアルミニウム版)、スクリーンプリント (2 枚)、コラージュ、手描きフレーム	151.1×104.1		東京都現代美術館
106	ボブ・ホルマンに話しかけるクリストファー・イシャーウッド、1983 年 3 月 14 日、サンタ・モニカ	1983	写真、コラージュ	112.4×165.8		東京都現代美術館
107	竜安寺の石庭を歩く 1983 年 2 月 21 日、京都	1983	写真、コラージュ	101.6×160.7		東京都現代美術館
108	天安門広場と紫禁城 『チャイナ・ダイアリー』より	1982	リトグラフ (1 枚の石版、4 枚のアルミニウム版、クレヨン、解墨)	49.5×54.5		東京都現代美術館
109	ベンブロック・スタジオの 2 つの椅子	1984	リトグラフ (4 枚のアルミニウム版)	47.0×55.9		東京都現代美術館
110	ベンブロック・スタジオの内部	1984	リトグラフ (9 枚のアルミニウム版)、手描きフレーム	102.9×125.7	117.2×140.0	東京都現代美術館
111	タイラーのダイニング・ルーム	1984	リトグラフ (14 枚のアルミニウム版)	81.3×101.6		東京都現代美術館
112	青い椅子とランプのあるベンブロック・スタジオ	1984	リトグラフ (14 枚のアルミニウム版)	47.0×55.9		東京都現代美術館
113	2 つの椅子を歩き過ぎて	1984-86	リトグラフ (19 枚のアルミニウム版)、スクリーンプリント (2 枚)、手描きフレーム	55.9×100.3	72.4×116.2	東京都現代美術館
114	ナンバーワン・チェアー	1985-86	リトグラフ (8 枚のアルミニウム版)、エッチング (1 枚の銅版)	55.9×47.6		東京都現代美術館
115	花瓶と花	1969	エッチング、アクアチント (1 枚の銅版)	93.5×71.0	70.0×55.5	東京都現代美術館
116	黒いチューリップ	1980	リトグラフ (1 枚のアルミニウム版)	111.8×76.2		東京都現代美術館
117	花瓶のアマリリス	1984	リトグラフ (10 枚のアルミニウム版)	127.0×91.4		東京都現代美術館
118	4 本の花のある静物	1990	リトグラフ (10 枚のアルミニウム版)	68.6×96.9		東京都現代美術館
119	居間とテラス、1986 年 7 月	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	43.2×55.9	60.3×73.7	町田市立国際版画美術館
	木、1986 年 11 月	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	installation size: 304.8×304.8		東京都現代美術館
120	木、1986 年 11 月 : A	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	55.5×42.5	61.0×73.5	東京都現代美術館
121	木、1986 年 11 月 : B	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	27.5×21.2	45.0×38.7	東京都現代美術館
122	木、1986 年 11 月 : C	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	35.5×21.2	62.0×48.0	東京都現代美術館
123	木、1986 年 11 月 : D	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	21.2×71.0	40.3×90.0	東京都現代美術館
124	木、1986 年 11 月 : E	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	21.2×71.0	45.3×95.5	東京都現代美術館
125	木、1986 年 11 月 : F	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	71.0×21.2	87.8×38.3	東京都現代美術館
126	木、1986 年 11 月 : G	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	27.5×42.6	46.7×61.5	東京都現代美術館
127	木、1986 年 11 月 : H	1986	カラー・コピー機によるホーム・メイド・プリント	27.5×42.7	46.0×61.5	東京都現代美術館
128	ランバント	1991	リトグラフ (5 枚のアルミニウム版)	72.6×107.3		東京都現代美術館
129	ニュー、オールド、ニュー	1991	リトグラフ (7 枚のアルミニウム版)	75.6×107.3		東京都現代美術館

魔法の美術館 光と遊ぶ超体感型ミュージアム

「魔法の美術館」は、壁に掛けられた絵画や彫刻を鑑賞する従来の展覧会ではなく、「見て」「触れて」「楽しむ」全く新しい体感型・参加型の展覧会です。人の動きに合わせて色とりどりの光や影のモチーフ、映像、音に変化する作品や、カメラの前に座ると瞬時にアート表現に変換された顔がスクリーンに映し出される作品、空間の微妙な風を受け静かに動き幻想的な光と影を展示室いっぱいに映し出す作品など、8組のメディア・アーティストによる15点の作品を紹介した。

いわき市内の児童・生徒へ特別招待券を配布したことや、体感型・参加型ということで

子どもたちの期待感が膨らんだこと、そして、夏休み期間ということもあり、24,975人の入場があり会場はにぎわっていた。

会期中の催し物として、本展出品作家 小松宏誠による、風に乗ってとび、ふわりと着地する「風植物」を考えて作る「風植物の庭研究所」、本展出品作家 重田佑介によるピクセルでアニメーションを制作する「ピクセルをうごかそう！」を開催し、どちらも参加者の満足度は高いものとなった。完成した作品は1階ロビーに展示し多くの来館者に見てもらうとともに、会場のにぎわいを演出してくれた。

会 期 2017年7月29日(土)～9月3日(日)
会 場 いわき市立美術館 企画展示室
主 催 いわき市立美術館、福島民報社、福島テレビ
企画協力 ステップ・イースト



作品リスト

No.	作家名	作品名	制作年 (西暦)	概要
1	田中 陽	.hito	2013年	イスに座ると、キュビズム的なアート表現に変換された自分自身が壁いっぱいに映し出され、顔を動かすと自分の顔が大胆に変換される。
2	坪倉輝明	Vertexceed	2015年	壁に配置された三角形の立体に手をかざすと、壁や立体にいろいろな色や形の模様が現れ変幻自在に動きだす。
3	田中 陽	shichihenge	2016年	作品の前に立つと壁一面に光や模様をついた自分自身の体が映し出される。体の模様や光は様々な種類に刻一刻と変化する。
4	的場やすし / 山野真吾 / 徳井太郎	SplashDisplay	2012年	敷き詰められた白いビーズの上を光的が動きまわる。その的にめがけて玉を投げ、的中すると色鮮やかなビーズが噴水のような勢いで舞い上がる。
5	坪倉輝明	不可視美術館	2017年	作品の置かれていない展示台や絵のない額縁が掛けられた不思議な空間。そこを懐中電灯で照らしてみると、今まで見えなかった作品が現れる。
6	重田佑介	がそのもり	2011年	童話や昔話を最小限の画素（ピクセル）で描画したアニメーション作品。手に持った真っ白な本に物語が映し出され、自分で歩きまわりながら物語の続きを追っていく。
7	小松宏誠	his philosophy	2012年	カラスの羽根とガチョウの羽根でできた風見鶏。少しの風でも反応する微風観測器のようでもある。キョロキョロとゆらめく独特な動きをする。
8	小松宏誠	Secret Garden	2011年	光に包まれた白い羽根の花が舞い続ける。「鳥が植物になったらどんな進化をするのだろうか？」というテーマのもと、羽根や卵の殻を使い「秘密の庭」として不思議な世界を表現している。
9	小松宏誠	Lifelog_ モビール	2013年	ガチョウの羽根でできたモビール。少しの風でもゆっくりと動く。
10	小松宏誠	Lifelog_ シャンデリア	2013年	ガチョウの羽根でできたシャンデリア。羽根の輪が、展示室の風をうけ、それぞれのスピードで回転し、木漏れ日のような光と影が広がる。
11	坪倉輝明	七色小道	2013年	通路を歩くと人の歩みに合わせていろいろな色や形の光が溢れ出し通路が輝きだす。そして、他の人が生み出す色と光が混ざり合い七色に輝く小道が完成する。
12	HDMI	happy halloween!	2010年	イスに座ると、ハロウィンの仮装をした自分の顔が映し出され、顔の様子は次々に変わる。
13	藤本直明	Immersive Shadow	2012- 2017年	壁一面に自分の影といろいろな色のボールが映し出される。自分の影でボールをはじくことができる不思議な作品。
14	藤本直明	衝突と散乱	2016年	床に散らばったいろいろな形や色の破片は互いに衝突したり散乱したりして動きまわる。その上を人が歩くと破片は人を避けようとして、さらに衝突と散乱を繰り返す。
15	宮本昌典 / 小岩原直志	ensemble silhouette	2016年	流れる五線譜に星のシルエットを置くと様々なメロディが流れる。星を移動させて不思議なアンサンブル（合奏）を奏でることができる。

現代アートの輝き——多様な人間像—— ピカソからウォーホルまで

現代アートの収集で定評のある、当館のコレクションを用いた企画。現代アートは難しいと敬遠されがちであるが、市民をはじめとした多くの方に現代アートに親しんでもらうのがねらい。テーマは親しみやすいように、人間がモチーフにされている作品を取り上げ、各作品には約100字の簡単な作品解説を付けた。

また、現代アートを苦手に行っている人でもとっつきやすくなるように、導入部では分かりやすそうな写実的な表現を取り上げ、徐々に、難しいと思われがちで、人物の肖像性よりも社会的なメッセージ性が重視された表現などにうつれるような配慮を意識した。

全体の構成は、①いわき、②日本、③20

世紀の巨匠、④ヨーロッパ、⑤アメリカの5つのパートに分けて、現代の多様な人間像の一端を紹介した。

会期中には、来館者に主体的に現代アートを見てもらうための仕掛けとして、作品についての人気投票「総選挙」を行った。観覧者の半数以上に当たる1,300人以上の方が参加し、そのうちの多くの方が、作品を選んだ理由を記入していた。そのコメントや鑑賞中の様子から判断するに、多くの方が作品を主体的に鑑賞していたことがうかがえ、この手法は成功したといえる。

観覧者数は2,114人で、コレクションによる現代アート展の集客の難しさを感じた。少しずつでも増やしていくのが今後の課題である。

会期 2017年9月16日(土)～10月22日(日)

会場 いわき市立美術館 企画展示室

主催 いわき市立美術館



作品リスト

No.	作家名(生没年)	作品名	制作年	技法、素材	サイズ(縦×横cm)
■現代アート の輝き ― 多様な人間像 ― ピカソからウォーホルまで 展 出品リスト					
1、「いわきゆかりの美術」から					
1	若松光一郎(1914-1995)	竹谷富士雄	1943	パステル・紙	31.0×22.0
2	若松光一郎(1914-1995)	鳥居敏文	1944	鉛筆、パステル・紙	31.0×22.0
3	若松光一郎(1914-1995)	鈴木新夫	1944	墨、鉛筆・紙	32.0×23.5
4	若松光一郎(1914-1995)	人物(N像)	1946	油彩・カンヴァス	91.0×72.5
5	若松光一郎(1914-1995)	幼児(素直)	1949	油彩・板	22.9×32.0
6	鈴木新夫(1915-1980)	眠る赤ん坊	1950頃	コンテ、油彩・紙	31.4×26.4
7	鈴木新夫(1915-1980)	橋のある風景	1966	油彩・カンヴァス	97.5×145.5
8	佐藤忠良(1912-2011)	常磐の大王	1956	セメント	21.5×14.5×23.0
9	吉田富美(1907-2009)	妻の像	1964	油彩・カンヴァス	140.0×110.0
10	石井 實(1931-)	父	1963	油彩・カンヴァス	162.0×130.5
11	鈴木芳子(1929-1998)	ある一族の肖像	1976	顔料・紙	196.1×291.0
12	鈴木芳子(1929-1998)	詩人K氏夫妻の肖像	1982頃	顔料・紙	116.5×91.0
13	松田松雄(1937-2001)	風景(民-A)	1977	油彩・カンヴァス	162.0×162.0
14	田口安男(1930-)	ぬけ変わりの季節	1977-	テンペラ・パネル	120.0×91.0
特別出品	田口安男(1930-)	(顔のドロイング)		インク・紙(全14点)	約25.1×17.0
2、「日本の戦後美術」から					
15	井上長三郎(1906-1995)	葬送曲	1947	油彩・カンヴァス	97.4×130.4
16	浜田知明(1917-)	初年兵哀歌(歩哨)	1954	エッチング、アクアチント・紙	24.0×16.2
17	浜田知明(1917-)	刑場(A)	1954	エッチング、アクアチント・紙	24.5×18.3
18	浜田知明(1917-)	刑場(B)	1954	エッチング、アクアチント・紙	22.0×10.6
19	浜田知明(1917-)	家族(大)	1974	エッチング、アクアチント・紙	28.9×22.9
20	浜田知明(1917-)	いらいら(A)	1974	エッチング、アクアチント・紙	35.5×24.0
21	浜田知明(1917-)	いらいら(B)	1975	エッチング、アクアチント・紙	35.5×27.3
22	浜田知明(1917-)	風化する街(A)	1977	アクアチント・紙	31.0×23.2
23	浜田知明(1917-)	行きどまり	1981	エッチング、アクアチント・紙	18.7×21.0
24	浜田知明(1917-)	みられてる	1982	エッチング、アクアチント・紙	20.0×23.0
25	河原 温(1933-2014)	印刷絵画 No. 2 いれずみ	1959	オフセット・紙	76.0×51.0
26	河原 温(1933-2014)	印刷絵画 No. 3 植民地の怒り	1959	オフセット・紙	76.0×51.0
27	河原 温(1933-2014)	印刷絵画 No. 4 砦	1959	オフセット・紙	34.5×51.0
28	勝呂 忠(1926-2010)	影	1954	油彩・カンヴァス	91.0×65.2
29	中村 宏(1932-)	国家論	1964	インク、カシュー、油彩・カンヴァス	130.0×160.0
30	小山田二郎(1915-1991)	夏の夜	1965	油彩・カンヴァス	53.0×65.0
31	小山田二郎(1915-1991)	シャンデリア	1975頃	水彩・紙	51.2×36.0
32	工藤哲巳(1935-1990)	遺伝染色体の中の散歩	1979	鳥籠、木、プラスチック、糸ほか	33.5×18.5×28.0
33	高松次郎(1936-1998)	赤ん坊の影	1980	アクリル彩・カンヴァス	250.0×310.0
34	森村泰昌(1951-)	美術史の娘 王女B	1990	カラー写真、透明メディウム	210.0×160.0
35	イケムラレイコ(1951-)	ウベルタにて	2001	油彩・カンヴァス	90×110.5
36	イケムラレイコ(1951-)	深い赤に臥す	2004	油彩・カンヴァス	60.0×80.0
37	舟越 桂(1951-)	静かなる奇襲	1986	楠、大理石、一部彩色(※寄託作品)	h.80.0
3、「20世紀の巨匠の版画」から					
38	パブロ・ピカソ(1881-1973)	棺	1959	リノカット・紙	53.0×63.7
39	パブロ・ピカソ(1881-1973)	三人の女	1959	リノカット・紙	53.0×64.2
40	パブロ・ピカソ(1881-1973)	バックス祭	1959	リノカット・紙	52.5×63.5

No.	作家名(生没年)	作品名	制作年	技法、素材	サイズ(縦×横cm)
41	バプロ・ピカソ(1881-1973)	母と踊り子と音楽家	1959	リノカット・紙	64.0×53.0
42	バプロ・ピカソ(1881-1973)	ジャクリース	1959	リノカット・紙	64.0×52.8
43	バプロ・ピカソ(1881-1973)	草上の昼食	1962	リノカット・紙	53.0×64.0
44	バプロ・ピカソ(1881-1973)	女の顔	1962	リノカット・紙	64.0×52.5
45	バプロ・ピカソ(1881-1973)	葉の冠をつけたひげの男	1962	リノカット・紙	34.8×26.8
46	バプロ・ピカソ(1881-1973)	豊かな髪の女	1962	リノカット・紙	35.0×27.0
47	バプロ・ピカソ(1881-1973)	帽子を被る女の胸像	1962	リノカット・紙	63.0×53.0
48	バプロ・ピカソ(1881-1973)	飾り帽子の女の顔	1962	リノカット・紙	64.0×53.0
49	バプロ・ピカソ(1881-1973)	花飾りの帽子	1963	リノカット・紙	53.0×40.0
50	マルク・シャガール(1889-1985)	「サーカス」1 扉絵	1967	リトグラフ・紙	42.5×32.5
51	マルク・シャガール(1889-1985)	「サーカス」2 自転車乗りたち	1967	リトグラフ・紙	42.4×32.6
52	マルク・シャガール(1889-1985)	「サーカス」4 赤い服の女曲馬師	1967	リトグラフ・紙	42.0×32.0
53	マルク・シャガール(1889-1985)	「サーカス」5 恋人たち	1967	リトグラフ・紙	42.5×32.5
54	マルク・シャガール(1889-1985)	「サーカス」10 黄色の道化師	1967	リトグラフ・紙	42.5×32.5
55	マルク・シャガール(1889-1985)	「サーカス」24 無題	1967	リトグラフ・紙	41.0×31.5
56	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」2 黒いピエロ	1935	アクアチント・紙	30.2×20.4
57	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」3 苦いレモン	1935	アクアチント・紙	30.7×20.5
58	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」4 こびと	1934	アクアチント・紙	30.5×20.6
59	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」6 小さな女曲馬師	1935	アクアチント・紙	30.0×20.6
60	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」7 ルイゾン婦人	1935	アクアチント・紙	30.6×21.0
61	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」9 カルメンシート夫人	1935	アクアチント・紙	30.5×20.7
62	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」10 親代々の旅芸人	1935	アクアチント・紙	30.5×20.3
63	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」11 アーサー親方	1934	アクアチント・紙	30.1×20.3
64	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」12 苦い甘さ	1934	アクアチント・紙	30.4×19.7
65	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」13 気むずかし屋	1935	アクアチント・紙	31.3×20.5
66	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」14 ピエロ	1935	アクアチント・紙	30.8×20.8
67	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」16 オーギュスト	1935	アクアチント・紙	30.9×21.1
68	ジョルジュ・ルオー(1871-1958)	「流れる星のサーカス」17 眠れ、よい子よ	1935	アクアチント・紙	30.8×21.3
69	アンリ・マティス(1869-1954)	「JAZZ」1 道化師	1947	ステンシル・紙	41.0×64.0
70	アンリ・マティス(1869-1954)	「JAZZ」2 サーカス	1947	ステンシル・紙	36.0×55.0
71	アンリ・マティス(1869-1954)	「JAZZ」8 イーカロス	1947	ステンシル・紙	41.0×57.5
72	アンリ・マティス(1869-1954)	「JAZZ」12 水槽で泳ぐ女	1947	ステンシル・紙	40.5×62.5
73	アンリ・マティス(1869-1954)	「JAZZ」15 ナイフ投げ	1947	ステンシル・紙	41.0×65.0

No.	作家名(生没年)	作品名	制作年	技法、素材	サイズ(縦×横cm)
74	ジョアン・ミロ(1893-1983)	老アイルランド人	1969	エッチング、アクアチント、カーボラ ンダム・紙	105.5×70.5
4、「ヨーロッパの戦後美術」から					
75	ピエール・アレシンスキー (1927-)	新聞雑報	1959	油彩・カンヴァス	100.0×149.5
76	カレル・アベル(1921-2006)	黄色い帽子	1964	油彩・カンヴァス	81.0×65.0
77	ベルナール・ビュッフェ (1928-1999)	裸婦	1957	油彩・カンヴァス	73.0×100.0
78	イヴ・クライン(1928-1962)	人体測定 A N T 66	1960	顔料、合成樹脂・カンヴァスに貼った紙	157.0×311.0
79	ホルスト・アンテス(1936-)	家族	1981	アクリル彩、油彩・カンヴァス	130.5×197.0
80	アンソニー・グリーン(1939-)	パッション II	1981	油彩・板・カンヴァス	160.0×160.0
81	ホワン・ヘノベス(1930-)	逮捕された男	1968	アクリル彩・カンヴァス	120.0×90.0
82	レオナルド・クレモニーニ (1925-2010)	普通列車	1965	油彩、アルミニウム板・カンヴァス	73.5×144.3
83	フリーデンスライヒ・フンデル トワッサー(1928-2000)	ボフツカワの木と移ろう 恋一パースでの一週間	1975	混合技法・チップボード	68.6×96.5
84	リチャード・ハミルトン (1922-2011)	インテリア	1965	シルクスクリーン・紙	49.0×63.6
85	アントニー・ゴームリー(1950-)	見ることを学んでいる	1991	鉛、ファイバーグラス	198.1(h)×48.3×27.9
86	アントニー・ゴームリー(1950-)	Immersion(浸礼)	1991	コンクリート	181.0(h)×50.5×36.5
5、「アメリカの戦後美術」から					
87	ロベルト・マッタ(1911-2002)	ハート・プレイヤー	1945	油彩・カンヴァス	194.5×252.0
88	アンディ・ウォーホル (1928-1987)	16のジャッキーの肖像	1964	アクリル彩、エナメル、シルクスクリー ン・カンヴァス	204.8×164.0
89	ジェームズ・ローゼンクイスト (1933-2017)	成長計画	1966	油彩・カンヴァス	178.0×356.0
90	トム・ウェッセルマン (1931-2004)	マティスのあるモニカ のヌード	1987	エナメル・レーザーカットスチール	138.0×234.0
91	アレックス・カツ(1927-)	ドンとサンドラ	1967	油彩・カンヴァス	183.2×124.0
92	マリソール(1930-2016)	貧しい家族 II	1987	木、ボール紙、人形、混合技法	251.5(h)×355.6× 99.0

ロートレックとベル・エポックのパリ－1900年

ベル・エポック期のパリにあって、科学・技術・文化芸術の発展のもと花開いた大衆文化やファッション、当時のパリの享樂的な雰囲気、ロートレックをはじめミュシャ、スタンラン、デュフィら同時代の作家たちの版画、水彩画約300点により振り返った展覧会。

特に、当時の人気作家たちを集めた装飾版画集『レストンプ・モデルヌ』のバラエティに富んだ作品群からは、当時のヨーロッパの風俗や文化的嗜好などが垣間見え興味深かった。他にも、ジュール・シェレのオリジナル・ポスターやロートレックの『サーカス』の全作品、ドガの死後に発行された娼婦シリーズ

など、貴重な作品をまとめて鑑賞できる良い機会となった。

会期中には、市内の芸術文化交流館いわきアリオスとの連携により、「私たちのベル・エポック」をテーマに、色彩心理研究家・末永蒼生、ピアニスト・ウォン・ウィンツァン、色彩アートセラピスト・江崎泰子、クリエイター・ウォン美枝子4氏による音楽と色彩と身体表現によるワークショップを実施。当時のパリの息吹きを体感しながら、現代の幸福論と芸術とのかかわりについて自らの実体験を介して思いをはせる有意義な時間を持つことができた。

会 期 2017年11月3日(金・祝)～12月17日(日)
会 場 いわき市立美術館 企画展示室
主 催 いわき市立美術館
企画協力 谷口事務所



作品リスト

No.	作品名	作家名(生没年)	技法、素材	作品サイズ 単位(mm)	制作年
I ベルエポックのアンスロジエ					
26	『エスタンプモデルヌ』		石版画	405×307	1897年5月-1899年4月
26-1	リフ族の女	ルイ＝オーギュスト・ジラルド(1856-1933)			
26-2	靴紐売り	ルイ・マルテスタ(1896-1930)			
26-3	秋	ルネ・メナール(1862-1930)			
26-4	コリンヌ	モーリス・レアリア＝デュマ(1860-1928)			
26-5	春の訪れ	エミール・ベルシュマン(1867-1947)			
26-6	笑う少女	アルマン・ベルトン(1854-1947)			
26-7	帰還	ジョルジュ・ド・フル(1868-1943)			
26-8	サロメ	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)			
26-9	たそがれ	ポール・パリュリオ(1860-1917)			
26-10	庭園	ガストン・ド・ラトネー(1859-1943)			
26-11	緑のオニキスのマドンナの 祈り	マルセル・ルノアール(1872-1931)			
26-12	孔雀女	ルイス・ジョン・リード(1857-1926)			
26-13	ひなげしの娘	ガストン・ダルブール(1869-1964)			
26-14	5月の花	アンリ・エラン(1864-1946)			
26-15	ブルターニュ	エミール・オーギュスト・ウェリー(1868-1935)			
26-16	ノエル	シャルル・レアンドル(1862-1934)			
26-17	夢想	アンリ・ベルリ＝デフォンティエス(1867-1909)			
26-18	見知らぬ女	アントワヌ・カルベ(1860-1942)			
26-19	春	モーリス・エリオット(1864-1945)			
26-20	黄金伝説	アルマン・ボワン(1860-1932)			
26-21	女城主	シャルル・ドゥードレ(1861-1938)			
26-22	夜の調べ	オーギュスト・フランソワ・ゴルゲ(1862-1927)			
26-23	パリスの審判	ポール・ジュヴ(1878-1973)			
26-24	ダンス	アルマン・ラッサンフォッス(1862-1934)			
26-25	魅惑	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)			
26-26	広場にて	アンル・エヴァンポール(1872-1899)			
26-27	盲目のラビ、エリシャ	アルフォンス・レヴィ(1843-1918)			
26-28	沈黙の時	アンリ・ムニエ(1873-1922)			
26-29	荒野の花	ジャック・ウェリー(1873-1910)			
26-30	舞台裏	アンリ・ブテ(1851-1919)			
26-31	往年の美女	ルシアン・レヴィ＝デュルメル(1865-1953)			
26-32	海の島のファーレーヌ(蛾) ※犬のパビヨンの語源	フランツ・メルヒャー(1868-1944)			
26-33	教会管理人	ルシアン・シモン(1861-1945)			
26-34	花の陰で	エドモン・アマン＝ジャン(1858-1936)			
26-35	洗濯女	カミーユ・ペランジェ(1853-1923)			
26-36	ニンフたちの水浴	ポール・アルベール・ローランス(1870-1934)			
26-37	ソルヴェイグ	グスタフ・マックス・ステイヴンス(1871-1945)			
26-38	アルテミス	オーギュスト・ドネー(1862-1921)			
26-39	鱈(スズキ)	オーギュスト・ルベール(1849-1918)	※木版		
26-40	アルビース	エミール＝アルベルト・アルティエグ(1850-1927)			
26-41	マノン	ルネ＝グザヴィエ・ブリネ(1861-1946)			
26-42	恋人の時	ハンス・クリスチャンセン(1866-1945)			
26-43	通りすがり	ロベルト・エンゲルス(1866-1926)			

No.	作品名	作家名(生没年)	技法、素材	作品サイズ 単位(mm)	制作年
26-44	聖ゲオルギウス	ジャンヌ・ジャックマン(1863-1938)			
26-45	10月の夕暮れ	エルネスト・ローラン(1859-1929)			
26-46	イバラに囲まれて	アンリ・ドトウーシュ(1854-1913)			
26-47	婚約者	フェルナン・ゴットロープ(1873-1935)			
26-48	期待	ピエール・ピュヴィ・ド・シャヴァンヌ(1824-1989)			
26-49	女曲馬師	リヒャルト・ランフト(1862-1931)			
26-50	ジェーン	ルイス・ジョン・リード(1857-1926)			
26-51	ブリュンヒルデ	ガストン・ブシエール(1862-1928)			
26-52	少女たちの遊び: ラグアト にて	アルフォンス・ディネ(1861-1929)			
26-53	不滅	アンリ・ファンタン＝ラトゥール(1836-1904)			
26-54	恋歌	オーギュスト・ローデル(1859-1900)			
26-55	炭鉱の町で	ジュール＝ギュスタヴ・ベッソン(1868-1942)			
26-56	ルテチア (パリの古名)	アドルフ・ジラルドン(1855-1933)			
26-57	ロンド (輪舞)	アンリ・ル・シダネル(1862-1939)			
26-58	下層階級の舞踏	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン (1859-1923)			
26-59	マリス・ステラ (聖母マリ ア)	マクシミリエンス・ギュイヨン(1863-1903)			
26-60	ダンテ、ベアトリーチェに 出会う	アンリ・ギョーム・マルタン(1860-1943)			
26-61	ゼーラントの市場	フェルナン・ピエ(1869-1942)			
26-62	死への道	ウジェーヌ・トリグレ(1864-1910)			
26-63	カシア	ウジェーヌ・ドラートル(1864-1938)			
26-64	パントマイム	アンリ＝ガブリエル・イベルス(1867-1936)			
26-65	お手玉で遊ぶ娘たち	ポール・ルロワ(1860-1942)			
26-66	秋のメヌエット	マニュエル・ロブ(1872-1936)			
26-67	兵舎の食事	ジャック・バゼイラック(1874-1903)			
26-68	魚釣り	シャルル・ウアール(1874-1965) ※木版			
26-69	野良婦り	ジュール＝アレクシス・ムエニエ(1863-1942)			
26-70	バレエの出番前	ポール・ルアヌール(1845-1906)			
26-71	オレンジを持つ少女	ルイズ＝カトリーヌ・プレスロウ(1856-1927)			
26-72	アンフォラを運ぶ人	モーリス・デヴァリエール(1857-1926)			
26-73	白鳥	フランシス・ジュールダン(1876-1958)			
26-74	ご機嫌ななめ	アルフレッド・ミュラー(1869-1939)			
26-75	謎	アンリ・ベルリ＝デフォンテーヌ(1867-1909)			
26-76	イワシ漁	ルイ・ボルジェクス(1873-1959)			
26-77	髪	ジュール・フランドラン(1871-1947)			
26-78	荒涼たる海	ラウル＝アンドレ・ウルマン(1867-1932)			
26-79	女とオウム	アンジェロ・ヤンク(1868-1940)			
26-80	湖上都市	フェルナン・コルモン(1845-1924)			
26-81	ポリチネッラ (道化)	アンリ＝バトリス・ディロン(1850-1909)			
26-82	バリジェンス	ポール・セザール・エミュー(1859-1927)			
26-83	キス	ビクトール・ブルヴェ(1858-1943)			
26-84	花売り娘	フィルマン・ブイセ(1859-1925)			
26-85	セイレーン	シャルル・ゲラン(1875-1939)			
26-86	穏やかな夜	アンリ・ギニエ(1867-1927)			
26-87	ランプ	フランソワ・ギゲ(1860-1937)			
26-88	美貌	エドワード・バーン＝ジョーンズ(1833-1898)			

No.	作品名	作家名(生没年)	技法、素材	作品サイズ 単位(mm)	制作年
26-89	旅立ち	ラファエル・コラン(1850-1916)			
26-90	読書する少女	ルイス・ウエルデン・ホーキンス(1849-1910)			
26-91	小間使い	フェルディナン・ルイジニ(1870-1943)			
26-92	ボートレイト	フェリックス・ブラックモン(1833-1914)			
26-93	祖母	ジャンヌ・グラネ(生年不詳-1923)			
26-94	森の中	ウジェーヌ・グラッセ(1845-1917)			
26-95	泉の声	ルシアン・エクトール・モノ(1867-1957)			
26-96	インペリア	アルフレッド・アガシュ(1843-1915)			
26-97	お人形さん	マルゲリット・デロルム(1876-1946)			
26-98	幼な子	ギョーム・デュビュッフエ(1853-1909)			
26-99	ヴァルミー	アドルフ・レオン・ウィレット(1857-1926)			
26-100	サロメ	リュック・オリヴィエ・メルソン(1846-1920)			
27	『ポスターの巨匠たち』		石版画	385×288	1895年-1900年
27-1	レスカラムツシュ誌	アンル＝バグリエル・イベルス(1867-1936)			
27-2	第5回サロン・デ・サン展	ジョルジュ・ド・フル(1868-1943)			
27-3	ミルクココア	ルシアン・ルフューブル(1850-没年不明)			
27-4	ピアホール	アルマン・ラッサンフォッス(1862-1934)			
27-5	クリシー広場にて	ウジェーヌ・グラッセ(1845-1917)			
27-6	ハーバース誌3月号	エドワード・ベンフィールド(1866-1925)			
27-7	アンバサドゥールのウジェ ニー・デュッフエ	ルシアン・メティヴェ(1863-1945)			
27-8	ドクター・ピエールの歯磨 き粉	ルイ・モーリス・ブデ・ド・モンヴェル(1850-1913)			
27-9	ヴァン・ホーテンのココア	アドルフ・レオン・ウィレット(1857-1926)			
27-10	モテユとドリア	テオフィル・アレクサンドル・スタンラン (1859-1923)			
II アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック (1864-1901)					
1	エグランテイエヌ嬢一座		石版画	617×804	1896
2	君のために		石版画	275×195	1893/1927フルーリ版
3	知恵		石版画	275×195	1893/1927フルーリ版
4	女性の習作		石版画	275×195	1893/1927フルーリ版
5	カルノーは病氣		石版画	275×195	1893/1927フルーリ版
6	探検家		ドライポイント	275×190	1898/1926フルーリ版
7	シャルル・モーラン		ドライポイント	257×190	1898/1926フルーリ版
8	フランシス・ジュールダン		ドライポイント	275×195	1893/1926フルーリ版
9	アンリ・ソム		ドライポイント	275×195	1898/1927フルーリ版
10	男の肖像		ドライポイント	275×195	1898/1927フルーリ版
11	出版社W.H.B.サンズ		ドライポイント	275×195	1898/1927フルーリ版
12	『はかない喜び』表紙		石版画	275×325	1897/1925フラビエ版
13	イヴェット・ギルパール、 「昔の歌」		石版画	348×268	1898/1930版
14	「ピエロにはコロンベース」 におけるイヴェット・ギル パール		石版画	348×268	1898/1950版
15	「テラコッタの二輪馬車」 プログラム		石版画	560×380	1895
16	金色の怪人面装飾のある棧 敷席		石版画	308×240	1893
17	髪結び：自由劇場のプログ ラム		石版画	315×240	1893

No.	作品名	作家名(生没年)	技法、素材	作品サイズ 単位(mm)	制作年
18	「お金」プログラム		石版画	319×239	1895
19	アルティザン・モデルヌ		石版画	900×640	1896
20	マルセル・ランデ嬢の胸像		石版画	365×275	1895
21	ディヴァン・ジャポネ		石版画	808×608	1895
22	メイ・ミルトン		石版画	795×620	1895
23	ラ・ルヴ・ブランシュ誌		石版画	1255×912	1895
24	『デジレ・ディオ歌謡集』		石版画	385×288	1895/1935ルフェーブル版
24-1	さよなら				
24-2	クリスマスのバラード				
24-3	雨が言うこと				
24-4	狂人				
24-5	蝶々				
24-6	燻製にしん				
24-7	秘密				
24-8	流れ星				
24-9	海の夜				
24-10	海燕				
24-11	花月				
24-12	わたしのきれいな董(スマ レ)を買って				
24-13	子守唄				
24-14	老いぼれ蝶々				
25	『サーカスにて』		石版画	385×288	1905制作刊行 限定200部
25-1	騎手			193×272	
25-2	道化師の調教			169×275	
25-3	動物の調教師			233×164	
25-4	調教の馬と猿			270×187	
25-5	奔放な象			245×182	
25-6	鞍にのる熊			245×195	
25-7	女道化師			281×208	
25-8	床マットの稽古			275×189	
25-9	舞台入場			277×176	
25-10	綱渡りの踊り子			275×186	
25-11	退場する馬			192×265	
25-12	立ち上がる馬			260×185	
25-13	空中ブランコ			280×180	
25-14	バ・ド・ドゥ			263×186	
25-15	高等馬術－スペインステッ プ			264×180	
25-16	高等馬術の騎手－後ろ足			247×183	
25-17	高等馬術の騎手－会釈			248×188	
25-18	高等馬術－タンDEM			265×182	
25-19	曲乗り			189×265	
25-20	裸馬乗り			259×180	
25-21	女曲馬師「彼女はおとなし い、お嬢さん」			270×208	
25-22	アンコール			275×186	
25-23	婦人騎手			353×231	

No.	作品名	作家名(生没年)	技法、素材	作品サイズ 単位(mm)	制作年
25-24	強健な馬と猟犬			239×323	
25-25	バンジョーを弾く黒人			311×202	
25-26	高等馬術の騎手-パッサージュ			310×202	
25-27	ウェイトトレーニング			350×253	
25-28	舞台裏			311×203	
25-29	反復練習			334×234	
25-30	輪くぐりの練習			327×233	
25-31	舞台裏-出番待ち			348×247	
25-32	犬の調教師			354×248	
25-33	鞍上の練習			206×305	
25-34	曲馬鞍の反復練習			326×233	
25-35	バレエ、水上の幻想と日本女性			232×325	
25-36	女道化師と馬			243×339	
25-37	ショコラ-寸劇			238×328	
25-38	女道化師と豚			330×235	
25-39	高等馬術の騎手-お辞儀			341×214	

Ⅲ 時代を彩った作家たち

28	ジャンス:春	エドゥアール・マネ(1832-1883)	エッチング	156×108	1882
29	『19世紀の版画家たち』	アンリ・ベラルディ著			
29-1	第I巻屏絵	ジュール・アダライン(1845-1909)	エッチング	257×174	1885
29-2	第II巻屏絵	アンリ・ブデ(1851-1919)	エッチング	257×174	1885
29-3	第IV巻屏絵	ジュール・シェレ(1836-1932)	石版画	257×174	1886
29-4	第IV巻屏絵	アルフレッド・ルイ・ブルネ=ドゥペヌ(1845-1939)	エッチング	257×174	1886
29-5	第V巻屏絵	アルフレッド=アレクサンドレ・ドローネー(1830-1894)	エッチング	257×174	1886
29-6	第VI巻屏絵	フェルディナンド・マゾリ(1821-1893)	エッチング	257×174	1887
29-7	第VI巻屏絵	ギュスターブ・フレポント(1849-1923)	エッチング	257×174	1887
29-8	第VI巻屏絵	ヴァレンティン・フルキエ(1822-1896)	エッチング	257×174	1887
29-9	第VI巻屏絵	ドレイナー(ジュール・ルナルル)(1833-1926)	エッチング	257×174	1887
29-10	第IX巻屏絵	モーリス・ルロワール(1853-1940)	エッチング	257×174	1889
29-11	第IX巻屏絵	オーギュスト・ルベール(1849-1918)	木版	257×174	1889
29-12	第X巻屏絵	エドモント・モラン(1824-1882)	石版画	257×174	1890
29-13	第IX巻屏絵	マリ-ニコラ・ブノワ・ソルニエ・ド・ラ・ピヌレ(1836-1916)	エッチング	257×174	1890
29-14	第X巻屏絵	ロドルフ・ピゲ(1840-1915)	エッチング	257×174	1890
29-15	第XI巻屏絵	アルベール・ロビダ(1848-1926)	エッチング	257×174	1891
29-16	第XII巻屏絵	ピエール・ティソニエール(1834-1912)	石版画	257×174	1892
29-17	第XII巻屏絵	アルベール・ティッサンディ(1848-1926)	エッチング	257×174	1892
29-18	第XII巻屏絵	アンリ・トゥッサン(1849-1911)	エッチング	257×174	1892
30	『パリの街』	ルイジ・ロワール(1845-1916)	石版画	140×90	制作年不詳
30-1	テンプル大通り				
30-2	サンミシェル橋付近				
30-3	カルーゼル広場				
30-4	ボンヌーヴェル大通り				
30-5	アンリ4世大通り				
30-6	レピュブリック広場				
30-7	パン・デビスの祭				
30-8	サン=ルイ島				
30-9	ロシュシュアール大通り				

No.	作品名	作家名(生没年)	技法、素材	作品サイズ 単位(mm)	制作年
30-10	ロシユシユアール大通り				
30-11	シャトレ広場				
30-12	オピタル大通り				
31	『ジャン＝フランソワ・ラファエリ』(アルセーヌ・アレクサンドラ著)	ジャン＝フランソワ・ラファエリ(1850-1924)	石版画	260×200	1909
31-1	ともだち				
31-2	パリ、4 km 1 番				
31-3	朝食				
31-4	舞台の女優				
31-5	旅行の女優				
31-6	パリのノートルダム				
31-7	日曜日の散歩				
31-8	レヴォルテ通り				
32	『ルキアノスの娼婦たちの無言劇』(ピエール・ルイス著)	エドガー・ドガ(1834-1917)	アクアチント、エッチング	325 × 255	1876/77制作 1935刊行 限定324部
32-1	お客をまちながら				
32-2	女街				
32-3	カフェ・コンセルの歌手				
32-4	お客をまちながら				
32-5	娼婦たち				
32-6	サロンで休息				
32-7	女主人のお祝い				
32-8	待合い				
32-9	ベッドで休息				
32-10	ふたりの女				
32-11	裸の女たち				
32-12	サロンで				
32-13	売春宿の三人の女 背面				
32-14	しゃがむ裸の女 背面				
32-15	浴槽の中で立つ女				
32-16	ビデ				
32-17	下着の売春婦たち				
32-18	待合い				
32-19	おしゃべり				
32-20	ベッドの上で				
32-21	休息				
32-22	二人の女				
33	雨傘を持つ女	ピエール・ボナール(1867-1947)	石版画	220×127	1894
34	橋	ピエール・ボナール(1867-1947)	石版画	370×524	1899
35	花の踊り子	ピエール・ラブラドール(1875-1932)	グワッシュ、パステル・紙	640×543	制作年不詳
36	歌い手	ピエール・ラブラドール(1875-1932)	鉛筆	229×138	制作年不詳
37	増水したセーヌ河、1910年	ポール・シニャック(1863-1935)	石版画	229×302	1923
38	競馬に当たった男	フェリックス・ヴァロットン(1865-1925)	木版画	325×255	1898
39	金曜日の宵	アンリ・ジェルベクス(1852-1929)	油彩・カンヴァス	814×542	制作年不詳
40	小路	チャールズ・ヴィオネ(1858-1923)	油彩・厚紙	375×204	1914
41	微睡む女	アントル・リトゥキー(1879-没年不詳)	パステル・合板	438×317	制作年不詳

No.	作品名	作家名(生没年)	技法、素材	作品サイズ 単位(mm)	制作年
42	母と子	マニュエル・ロブ(1872-1936)	アクアチント	612×440	1895
43	コルセットの女	マニュエル・ロブ(1872-1936)	アクアチント	606×442	1906
44	野ばら	ポール・ベルトン(1872-1936)	石版画	510×640	1900
45	おおでまりの花	ポール・ベルトン(1872-1936)	石版画	510×640	1900
46	『クリオ』(アナトール・フランス著)	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)	石版画	190×135	1900 限定150部
46-1	表紙				
46-2	キメの吟遊詩人				
46-3	キメの吟遊詩人				
46-4	キメの吟遊詩人				
46-5	アトレパテス人コム				
46-6	アトレパテス人コム				
46-7	アトレパテス人コム				
46-8	ファリメタデッリウベル ティあるいは内戦				
46-9	王は飲む				
46-10	王は飲む				
46-11	王は飲む				
46-12	ムイロン号				
46-13	ムイロン号				
47	四季	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)	石版画	453×628	1896
48	ノエル 1896 『イリュストラシオン』誌 1896年クリスマス号表紙	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)	石版画	405×293	1896
49	「ルフェーブル＝ユティル ・ヴァニラ・ゴーフ」ラ ベル	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)	石版画	205×179	1899
50	「ルフェーブル＝ユティル ・プラリネ・ゴーフ」ラ ベル	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)	石版画	205×179	1899
51	「ルフェーブル＝ユティル のビスケット」ラベル	アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)	石版画	225×200	1900
52	「虹」フォーリー・ベルジュール	ジュール・シェレ(1836-1932)	石版画	1240×880	1896
53	オペレッタ「こうもり」: ヴァリエテ劇場	ジョルジュ・ドール(1872-1950)	石版画	798×604	1900
54	マニキュア	メアリー・カサット(1844-1926)	ドライポイント	209×149	1908
55	踊り子	アンリ・マティス(1869-1954)	石版画	510×330	1927
56	『パリ、街の素顔』	チャズ・ラボルト(1886-1941)			
56-1	20区のマニルモンタン				
56-2	モンパルナス				
56-3	シャンゼリゼ通り				
56-4	グラン・ブルヴァール				
56-5	レピック通り				
56-6	オペラ座、7時				
56-7	パッシー				
56-8	ブローニュの森、日曜日				
56-9	ブローニュ通り				
56-10	メトロ、エトワール広場行 き				
56-11	百貨店				
56-12	正午				

No.	作品名	作家名(生没年)	技法、素材	作品サイズ 単位(mm)	制作年
56-13	バドック				
56-14	食前酒、ブランシュ広場				
56-15	ミュージックホール				
56-16	女すもう				
56-17	ボクシング会場				
56-18	ダンス				
56-19	夜のレストラン				
56-20	売春宿にて				
57	昼顔：ガラス工芸品のため の下絵	作者不詳	水彩、鉛筆・紙	499×326	制作年不詳
58	ひまわり：ガラス工芸品の ための下絵	作者不詳	水彩、鉛筆・紙	495×325	制作年不詳
59	電気の精 10点組	ラウル・デュフィ(1877-1953)	石版画	1015×635	限定 350部 1937年制作の 油彩画をもとに 1953年ムルロー と共作

平成29年度 いわき市小・中学生版画展

「いわき市小・中学生版画展」は、いわき市内の児童生徒の日ごろの活動の成果を広く市民に紹介するとともに、児童生徒が造形学習や表現行為への興味と喜びを体験する機会とすることを目的に開館以来開催を続けている展覧会である。

「240cm×240cm以内の共同制作」という作品規格も5年目を迎え各校に定着した。また、会場配布用パンフレットも好評で、「児童生徒の励みになる。」「パンフレットが素晴らしい。」「次年度の参考になる。勉強になる。」といった声をいただく。

- 会期 平成30年1月5日(金)～1月28日(日)
 前期展示 平成30年1月 5日(金)～1月14日(日)
 後期展示 平成30年1月17日(水)～1月28日(日)
- 会場 いわき市立美術館
 主催 いわき市教育委員会 いわき市立美術館
 協力 いわき市小学校教育研究会図画工作部会
 いわき市中学校教育研究会美術部会



昨年比で見ると出品点数9%減、参加者数9%減、入場者数15%減となり、全体的に減少傾向にある。その理由として、統廃合による学校数の減少、児童生徒数の減少があげられる。しかし、担当教員アンケートでは、「小・中学生の作品が展示され、発表される機会があるのは素晴らしい。今後も続けて欲しい。」といった好意的な意見を数多くいただいた。

作品の制作、搬入、搬出についてもおおむね好評であり、来観者からは展示構成について好意的な意見が寄せられている。このことから、当面は現在のスタイルと踏襲し、作品一点一点を大切にした展示にしていく必要がある。

会期中の催しとしては、フロタージュとステンシルでオリジナルカードづくりに挑戦する恒例の「プリント・コーナー」を毎日開催したほか、実技講座「厄除け!! 新聞紙とガムテープで巨大犬『播磨のめっかい』」、春を祝うコンサート&パフォーマンス「めいれいどおりすすめ! アリオスから市立美術館に侵入せよ!」、リノリウム版画とスチレン版画を体験する わくわくアートスクール「版画を楽しもう」を開催し多くの参加者を得た。



■参加校及び出品点数

参加校	61校	小学校 中学校 特別支援教育諸学校	50校 7校 4校	前期展示 展示点数(全て共同作品) 出品校 出品者数	140点 31校 2,846名
出品点数	297点	小学校 中学校 特別支援教育諸学校	243点 14点 40点	後期展示 展示点数(全て共同作品) 出品校 出品者数	157点 30校 3,668人
参加者数	6,514人	小学校 中学校 特別支援教育諸学校	6,036人 281人 197人		

■参加校一覧

◆前期展示校

【小学校】

平第一小学校
平第五小学校
中央台東小学校
豊間小学校
草野小学校
四倉小学校
久之浜第二小学校
小川小学校
桶売小学校
小白井小学校
御厩小学校
宮小学校
小名浜第一小学校
鹿島小学校
江名小学校
泉小学校
湯本第一小学校
湯本第二小学校
汐見が丘小学校
錦小学校
上遠野小学校
いわき秀英小学校

【中学校】

平第二中学校
中央台北中学校
藤間中学校
桶売中学校
三和中学校
泉中学校

植田中学校

【特別支援教育諸学校】

平支援学校
いわき支援学校

◆後期展示校

【小学校】

平第二小学校
平第四小学校
郷ヶ丘小学校
中央台北小学校
中央台南小学校
夏井小学校
赤井小学校
大浦小学校
大野第一小学校
久之浜第一小学校
小玉小学校
川前小学校
綴小学校
高坂小学校
高野小学校
好間第一小学校
好間第三小学校
好間第四小学校
小名浜第二小学校
小名浜西小学校
泉北小学校
渡辺小学校
湯本第三小学校
磐崎小学校
植田小学校
錦東小学校
勿来第二小学校
入遠野小学校

【特別支援教育諸学校】

聴覚支援学校平校
富岡支援学校

NEW ART SCENE IN IWAKI

片口直樹－聴くことの比喩

片口は学生時代から主に人物、風景を題材とした油彩画を発表してきたが、近年に至り、絵画の制作過程を定点撮影し、作品として仕上げられていく変遷の様子を映像化した作品や、鑑賞者の身体行動を作品に取り込むインタラクティブな表現の可能性の追求、さらには映像作家との協働作業による映像と絵画の密やかな融合を試みている。

絵画表現に軸足をおいた片口の映像作品は、絵画面に流れる時間を抽出し、そこに立ち現れる作家の身体表現としての軌跡の一端を浮かび上がらせる。今回の新作も同一キャンバス上に描いた絵画の数々を撮影し、それらの画像を基に最終的な表層「絵画」へと至るプロセスを映像化しているが、いわき芸術文化交流館アリオスの小劇場で特別上映された映像作品には波の音や子供の声が音声として加えられ、映像作家と画家とのコラボレ-

ションがさらに深化していることが伺えた。

今回の企画はアリオスが共同主催となり、美術館の展示空間とは異なる劇場空間において、これまでにないスケールと精緻さで映像作品が上映され、片口にとっても今後の展開を促す機会になったと思われる。

なおアリオスでの映像作品上映日に、片口と映像作家、そして担当芸員による鼎談が行われた。

会 期 平成29年11月3日(金・祝)～12月17日(日)
月曜休館
開館時間 9時30分～17時
会 場 いわき市立美術館 1階ロビー
いわき芸術文化交流館アリオス小劇場
※なお小劇場は、11月23日13時～20時のみ開催
主 催 いわき市立美術館
いわき芸術文化交流館アリオス



出品リスト

《いわき市立美術館》

- ①まねく 2017年 油彩・キャンバス 46×53cm
- ②つたう 2017年 油彩・キャンバス 27×22cm
- ③うつわ 2017年 油彩・キャンバス 97×130cm
- ④はこぶ 2017年 油彩・キャンバス 65×80cm
- ⑤ひらく 2017年 油彩・キャンバス 27×27cm
- ⑥とざす 2017年 油彩・キャンバス 27×27cm
- ⑦そえる 2017年 油彩・キャンバス 91×117cm
- ⑧はなつ 2017年 油彩・キャンバス 53×73cm
- ⑨てらす 2017年 油彩・キャンバス 46×38cm
- ⑩すくう 2017年 油彩・キャンバス 134×259cm
- ⑪すくう 2017年 DVD

《いわき芸術文化交流館アリオス小劇場》

- ①すくう 2017年 DVD
- ②さけぶⅡ-12 2017年 油彩・キャンバス 97×130cm

第 47 回いわき市民美術展覧会

●書の部

一般応募110点(内、青少年8点)
展示点数131点(招待21点、一般110点)

●絵画・彫塑の部

一般応募188点(内、青少年22点)
展示点数199点(招待11点、一般188点)

●陶芸の部

一般応募108点(内、青少年23点)
展示点数119点(招待11点、一般108点)

●写真の部

一般応募180点(内、青少年0点)
展示点数181点(招待1点、一般180点)

以上が、第47回いわき市民美術展覧会(市美展)の応募・展示状況である。

書の部では、応募点数が昨年に比べ6点減であり、近年の減少傾向のまま、書道人口の高齢化が原因なのかも知れない。絵画・彫塑の部では、応募点数は昨年なみであり、また、この10年ほどでは、応募点数はほぼ180から210点の範囲で推移している。陶芸の部では昨年に比べ35点の減で、震災以降

に増加した分が減って、ほぼ震災前の規模に戻っている。写真の部では、応募点数は昨年に比べ19点の減だが、この5年で見ると、ほぼ180から200点の範囲で推移している。

各部門で共通して話題となるのは、部会員や出品者の高齢化であり、若い世代を市美展に取り込んでいくことが今後の課題となっている。

なお、47回展の特記事項としては、書の部が審査員を、これまでの市内の招待作家4人が審査員になるのではなく、他の部門のように、市外からの一人にしたことである。このことによる影響等が今後どのような形であられるのか、注目される。



会 期 書の部
平成30年2月9日(金)～2月18日(日)
絵画・彫塑の部
平成30年2月23日(金)～3月4日(日)
陶芸の部
平成30年3月9日(金)～3月18日(日)
写真の部
平成30年3月9日(金)～3月18日(日)

会 場 いわき市立美術館企画展示室
主 催 いわき市民美術展覧会運営委員会
いわき市教育委員会 いわき市文化協会
いわき市立美術館

後 援 財福島県報徳社 福島民報社
福島民友新聞社 いわき民報社
NHK福島放送局 ラジオ福島
福島テレビ 福島中央テレビ 福島放送
テレビユー福島
いわき市民コミュニティ放送

協 力 いわき美術協会 いわき陶芸協会
いわき書道協会 いわきアート集団
いわき写真協会

審査員 書の部 遠藤昌弘(書家)
絵画・彫塑の部 佐治ゆかり
(郡山市立美術館長)
陶芸の部 藤原郁三(陶芸家)
写真の部 鈴木一雄(写真家)

書の部入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	大孟鼎の一節	樋田静流	錦町
いわき市議会議長賞	島崎藤村の詩	阿部嶋泉	平下平窪
いわき市教育委員会教育長賞 《佳作》	鶯	臺麗子	遠野町滝
いわき市文化協会会長賞	杜甫詩	片寄光月	平
福島県報徳社賞	楽神曲	丹野清波	小名浜岡小名
美術館友の会賞	新古今集のうた	西恵美子	四倉町
有限会社トーカイ賞	抱朴守静	春日賢治	内郷高坂町
遠藤一心堂賞	元好問詩	木田涼祥	中央台
//	淮陰侯列伝	馬上溪花	平中山
株式会社坂本紙店賞	臨張遷碑	小野恵風	平中山
有限会社磐植賞	臨虎溪山前漢簡	佐藤景苑	平
キョー和賞	厲鶚詩	山野遼素心	平谷川瀬
書優会賞	李白詩	大平峰生	佐糠町
アーツスペース泉賞	李白詩	山川榮雪	平
株式会社風雅プランニング賞	杜甫詩	吉村翠苑	平
//	李商隠詩	笹原東邨	中岡町
//	邑師道暈等釋迦像記	福岡憲子	内郷綴町
常磐工業株式会社賞 《特別賞》	李百詠断簡	飯島史帆	好間町上好間
青少年賞（西田アトリエ賞）	臨曹全碑	木田みのり	好間町中好間

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とする。

絵画・彫塑の部入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	標本箱シリーズ「思索する無意識」	高木武廣	小名浜
いわき市議会議長賞	秋の頃	佐藤吉尚	小名浜住吉
いわき市教育委員会教育長賞 《佳作》	She has a pure heart	佐々木寿子	錦町
いわき市文化協会会長賞	晩秋の阿弥陀堂	遠藤敏親	鹿島町
福島県報徳社賞	こもれび	根本吉夫	内郷高野町
//	開運の魚	未来野ひかる	中央台
//	勇気で太陽（竹アンドン）	滝田忠三郎	勿来町
美術館友の会賞	ふるさとの情景	伊藤集三	平下神谷
有限会社トーカイ賞	煙草を持つミュージズ	佐藤俊之	泉ヶ丘
株式会社箱崎美術広告社賞	明るい農村 Part 3（作業ギ）	あきもと まさあき	勿来町
椿屋賞	AM 4：30	田邊香絵	植田町
//	あの日からの海—2018	斉藤信子	山田町
昭文堂賞	畑のある通り	青木誠太	泉町滝尻
//	特訓	佐藤善江	平中神谷
画廊喫茶モナミ賞	灯台の見える昭和の二見ヶ浦	安藤 勇	内郷綴町
ギャラリー磐城賞	CORROSION - '18- I	鈴木儀一	中央台
アーツスペース泉賞	軌跡	吉田健人	内郷御台境町
アーツスペース エリコーナ賞	玄黄記 18-02	吉田成寿	小名浜下神白
《特別賞》			
青少年（ギャラリーわづくりや）賞	予感	鈴木天音	小名浜玉川町
青少年奨励（X）賞	軌跡	吉田健人	内郷御台境町

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で、20歳未満の出品者を対象とする。

※青少年奨励（X）賞は、美術を志す青少年育成のため、25歳以下の上位受賞者を対象にダブル授与される。

陶芸の部入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	風と葉	芳賀明美	中央台
いわき市議会議長賞	御影練込焼締花生	阿部新一	錦町
いわき市教育委員会教育長賞 《佳作》	彩 2018	荻野イチ子	泉町
いわき市文化協会会長賞	眠らない都	太田俊恵	泉ヶ丘
福島県報徳社賞	花器	緒方延子	内郷宮町
美術館友の会賞	雪冠	小川節子	内郷綴町
M氏賞 (いわき陶芸協会)	匏紋大鉢	平子タキ子	小川町上小川
ギャラリー界隈賞	獅子	キダサトコ	平下大越
ギャラリー磐城賞	清風	佐久間静子	常磐上湯長谷町
アーツスペース泉賞 《特別賞》	織部の深鉢	菊田君江	小川町柴原
青少年賞 学校法人山崎学園賞	茶碗「春の野」	鈴木加奈子	好間町小谷作
青少年賞 東日本国際大学附属昌平中学・高等学校賞	涼	愛乃	常磐上矢田町

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で20歳未満の出品者を対象とする。

写真の部入賞者

賞名	題名	氏名	住所
いわき市長賞	夜明けの散歩	岡 光明	錦町
いわき市議会議長賞	晩夏	太田昭子	小名浜
いわき市教育委員会教育長賞 《佳作》	国宝を守る	柏館 健	金山町
いわき商工会議所会長賞	満天の塩屋	丹野 稔	平谷川瀬
いわき市文化協会会長賞	笑顔が戻った安波祭	渡邊俊恵	泉玉露
福島県報徳社賞	氷湖のめざめ	黒澤泰弘	平下平窪
//	うそぶく煙	中村幸稚	常磐上湯長谷町
美術館友の会賞	お母さん 早く～	野木道弘	常磐松が台
社団法人 いわき観光まちづくりビューロー賞	浜谷からの贈り物	富岡榮子	内郷高坂町
//	里の朝	草野喜雄	中央台
福島県写真館協会いわき支部賞	雄渾	高橋光夫	平下高久
昭文堂賞	秋彩	江尻敏子	平北神谷
東日本国際大学賞	セクシーポーズ	望月 治	平赤井
YK写真工房賞	暮秋	加澤都子	小名浜
小百合賞 (尙磐植)	初めまして キアンコウ	渡辺芳子	平
カメラのキタムラ賞	記念写真	泉 武子	金山町
カメラの矢吹賞	産卵の時間	鳥海陽太郎	平
いわき写真協会賞	清爽な佇まい	長谷川清夫	四倉町
イタリアンレストランテラツア賞	寂	馬場喜代治	四倉町
源太賞	氷紋	江尻利一	泉玉露
//	予感	大津賀禮子	内郷高野町
だいこん家賞	愛の賛歌	早坂公男	平赤井
ミモザギャラリー賞	祈り	岩佐辰郎	小名浜大原

普及事業
移動美術館
 (アートキャラバン2017)

アートを活用し、活気と潤いのある日常環境を提案するアウトリーチ事業。年齢を問わず、気軽に楽しめるワークショップやセミナー・プログラムを持参し、希望者の集う市内施設を巡る。本年度は、色彩、工作、美術鑑賞のほか、声とことばによる身体表現を加えた11種のプログラムを準備して希望者を募った。

開催日	講師	会場(参加団体)	講座名(内容)
5月10日 5月23日	当館学芸員	中央公民館(ことぶき学級) 美術館(飯野公民館市民講座)	展覧会を10倍楽しむ方法-レオナルド・フジタとモデルたち 企画展の見どころや楽しみ方を、各展覧会担当学芸員がレクチャー形式で紹介。
6月27日 8月29日	当館学芸員	美術館(飯野公民館市民講座) 美術館(飯野公民館市民講座)	展覧会を10倍楽しむ方法-デイヴィッド・ホックニーの版画展 展覧会を10倍楽しむ方法-魔法の美術館
10月17日 11月8日 11月21日	当館学芸員	美術館(飯野公民館市民講座) 磐城学芸専門学校(コミックアート科) 美術館(飯野公民館市民講座)	展覧会を10倍楽しむ方法-現代アートの輝き 展覧会を10倍楽しむ方法-ロートレックとベル・エポックの巴里
5月26日 8月22日 9月8日	当館学芸員	磐城学芸専門学校(コミックアート科) 青空学童保育クラブ 市文化センター(New碧空の会)	ペットボトル工作を楽しもう 身近にあるペットボトルをはさみで切ったり編んだりして小物入れやランプシェードを作る。
6月7日 6月21日 6月22日 8月10日 8月22日 9月14日 9月28日	当館学芸員	下三坂集会所(下三坂サロン) 内郷公民館(女性セミナー) 大浦小学校(3年生) あざみ野幼稚園(あざみ野学童クラブ) ピーターパンチャイルドクラブ(学童保育) 下永井公民館(下永井サロン) 小川公民館(小川倶楽部)	岩絵具で遊んじゃおう 顔彩や岩絵具など、日本画用の絵の具を使ったぬりえ体験。未就学児から高齢者までだれでも気軽にチャレンジできる。
6月9日 6月13日 6月16日 6月20日 8月1日 8月17日 10月6日 10月12日 10月20日 11月7日 11月10日	当館学芸員	市文化センター(New碧空の会) 錦公民館(レディースセミナー) 久之浜第一小学校(1年生) 大浦小学校(2年生) 青空学童保育クラブ 鎌田公民館(かまたサロン) 磐崎公民館(女性セミナー) 大浦公民館(大浦教養セミナー) 神谷公民館(高齢者学級) 大浦小学校(6年生) 小名浜公民館(高齢者学級)	切り絵・切り紙の楽しい世界 簡単な既成の下絵や参加者オリジナルの下絵を用いたアートカッターによる切り絵や当館所蔵作品で楽しむ3D切り紙、ハサミを用いて幅広い年代が楽しめるアイヌ文様切り紙などを紹介。
6月28日 7月8日 7月13日 12月8日	森 絵留 (盛名劇団 かもめ主 宰)	神谷公民館(ミセス教室) 飯野公民館(きらきら探検隊) 夏井公民館(女性セミナー) 市文化センター(New碧空の会)	声とことばのワークショップ 声を出して元気アップ! ことばの専門家といっしょに楽しく声を出したり、身体を動かしたり、朗読に挑戦しながら、気分も身体もリフレッシュさせるワークショップ。



アートキャラバン「ペットボトル工作を楽しもう」(市文化センター)



アートキャラバン「岩絵具で遊んじゃおう」(大浦小学校)



アートキャラバン「切り絵・切り紙の楽しい世界」(市文化センター)

開催日	講師	会場(参加団体)	講座名(内容)
6月30日 9月7日 9月20日 10月13日 11月15日 11月30日	山本伸樹 (美術家)	内郷老人福祉センター(いきいきデイクラブ) 飯野公民館(さわやか女性セミナー) 夏井公民館(くすのき高齢者学級) 磐城学芸専門学校(コミックアート科) 大浦公民館(大浦寿大学) 小川公民館(小川倶楽部)	“福興だるま”に願いを込めて！ 福島県の復興のシンボルとして“福興だるま”の制作を続ける美術家に 福島のだるまの歴史や絵付けを習いながら自分だけの“福興だるま”を 作る。
8月8日 10月11日 10月22日	当館学芸員	大浦公民館(四倉地区青少年育成会) 小名浜公民館(小名浜西幼稚園保護者会) 磐崎公民館(西郷子供会)	世界にひとつだけのガラスアート ルーターを使ってガラスに模様を彫り込み、自分だけのガラス作品を 仕上げる。型紙シールを使った簡単な方法から自分で模様を考えて描 くものまで自由に体験できる。
10月20日	当館学芸員	総合教育センター(チャレンジホーム)	コロコロオブジェ 針金造形作家、橋寛憲(はしひろのり)氏考案のコロコロオブジェを作 家了解のもと当館学芸員がその制作方法を紹介。ダンボールと針金を 組み合わせ、ビー玉がコロコロ転がる楽しいオブジェを作る。

普及事業 講演会

展覧会の開催に併せて、出品作品やその背景の理解を深めるために、専門の講師を招き開催。美術の分野にかかわらず多様なフィールドから導かれる鑑賞法などについての論述など、聴衆の興味を喚起するよう内容・形式を工夫して実施した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
4月15日	佐藤幸宏 (美術史家/本展監修 /北海道立近代美術 館学芸副館長)	フジタとモデルたちー乳白色の裸婦から群像表現へ レオナルド・フジタとモデルたち展に併せて開催。出品作品を中心に、また 佐藤氏が独自に準備した参考作品など豊富なスライドにより、特有の乳白色 の絵肌の表現から、群像表現に至るフジタの人物表現について詳細に解説。 また、描かれたモデルたちとの興味深いエピソードも紹介。	セミナー室
5月7日	原田久美子 (公益財団法人平野 政吉美術館学芸員)	藤田嗣治と東北ー壁画(秋田の行事)をめぐって レオナルド・フジタとモデルたち展に併せて開催。フジタの生涯についての 概略に続き、講師が長く研究している作品《秋田の行事》の制作秘話、作品の 詳細な解説を行った。特に「美しい日本」を描くフジタの視線について話し の中で紹介されたフジタの監督映画「日本の現代」についての論述は興味深い内 容であった。	セミナー室
6月25日	齊藤泰嘉 (筑波大学名誉教授)	ホックニーに学ぶアートの秘密 デイヴィッド・ホックニー版画展に併せて開催。	セミナー室
9月30日	中野信子 (脳科学者/東日本国 際大学教授)	現代アートはおもしろい 現代アートの輝き展に併せて開催。脳科学の様々な知見を紹介しながら、人 間が「美しい」と感じる能力と、社会的な善悪を判断する能力について概説。	セミナー室
11月26日	河野泰久 (福井市美術館学芸 員)	ベル・エポックの作家たちとクール・ジャパン ロートレックとベル・エポックの巴里ー1900年展に併せて開催。展覧会監修 者を講師に招き、ベル・エポックの作家たちと日本美術、特に浮世絵との影 響関係に焦点を当てながら、展覧会出品作品の見どころを紹介。	セミナー室



アートキャラバン「切り絵・切り紙の楽しい世界」(鎌田公民館)



アートキャラバン「声とことばのワークショップ」(飯野公民館)



アートキャラバン「声とことばのワークショップ」(夏井公民館)

普及事業 美術講座

展覧会鑑賞の一助として、また、様々な美術の情報の提供を目的として当館学芸員が講師となり随時開催。

日時	講師	講座名(内容)	会場
4月22日	佐々木吉晴 (当館館長)	館長講座「1920年代『狂乱の時代』のパリ」	セミナー室
7月7日	佐々木吉晴 (当館館長)	館長講座「バックスとアポロンの対比を巡って」	セミナー室
8月2日	当館学芸員	ティーチャーズ・ミュージアム 市内の教員を対象とし、美術館活動への理解、美術館と学校の連携などを促すことを目的に開催。常設展の鑑賞、本年度後半の企画展の紹介などを行った。	セミナー室
9月24日	佐々木吉晴 (当館館長)	館長講座「赤の美術史」	セミナー室
12月9日	佐々木吉晴 (当館館長)	館長講座「世紀末 ベル・エポックの時代」	セミナー室
2月25日	佐々木吉晴 (当館館長)	館長講座「池袋モンパルナスと福島の実験家たち」	セミナー室

普及事業 ギャラリー・トーク

作品鑑賞の一助として、常設展では毎週土曜日に定期的に、企画展では土曜日・日曜日を中心に会場内で作品を前にして解説を行った。また、団体、個人にかかわらず要望に応じて随時開催した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
毎週土曜日 (47回開催)	当館学芸員	常設展解説 毎週土曜日の定例開催。定期開催の常設展の作品解説。	常設展示室
4月22日 5月20日	当館学芸員	レオナルド・フジタとモデルたち—素晴らしき乳白色の肌— レオナルド・フジタとモデルたち展に併せて開催。展示作品に隠された5人の妻との関係、また、それぞれの時代のエピソードを交えて作品解説を行った。	企画展示室
7月9日	当館学芸員	デイヴィッド・ホックニー版画展 デイヴィッド・ホックニー版画展に併せて開催。	企画展示室
9月17日 10月14日	当館学芸員	現代アートの輝き—多様な人間像—ピカソからウォーホルまで 現代アートの輝き展に併せて開催。展覧会の概説の後、いくつかの展示作品について解説。	企画展示室
通年27回	当館学芸員	団体解説 要望に応じて実施。	常設展示室、企画展示室



アートキャラバン「『福興だるま』に願いを込めて！」(磐城学芸専門学校)



アートキャラバン「『福興だるま』に願いを込めて！」(大浦公民館)



アートキャラバン「世界にひとつだけのガラスアート」(大浦公民館)

普及事業
ワークショップ

美術、造形に限定しない幅広い表現活動について、専門の講師を中心に参加者の自主性に多くを委ねる形で実施。「美術館的'自由研究ノススメ」や「収蔵作家によるワークショップ」など恒例のワークショップや企画展の内容にあわせたワークショップなど独自のプログラムを展開。

日時	講師	講座名(内容)	会場
5月5日	高橋克之 (画家)	自分を描くことー自画像の魅力(大人コース) レオナルド・フジタとモデルたち展に併せて高校生以上を対象に開催。フジタもよく描いた自画像に取り組んだ。2日間の日程で2点の作品を仕上げた。ワークショップの最後には、仕上げた作品の発表・鑑賞会をおこない「自画像を描くこと(の意義)」、「自画像の魅力」を堪能した。	セミナー室
5月6日	高橋克之 (画家)	自分を描くことー自画像の魅力(子どもコース) レオナルド・フジタとモデルたち展に併せて中学生以下を対象に開催。フジタもよく描いた自画像に取り組んだ。2日間の日程で2点の作品を仕上げた。ワークショップの最後には、仕上げた作品の発表・鑑賞会をおこない「自画像を描くこと」、「自画像の魅力」を楽しんだ。	セミナー室
8月5日 8月6日	当館学芸員	2017夏 '美術館的'自由研究ノススメ バックヤードも含めた「いわき市立美術館」をフィールドに、参加者各自が自分の研究テーマに沿って研究を進めるプログラム。子供から大人までの参加者が、年齢を超えて創造的なコミュニケーションを深める豊かな時間となった。	セミナー室、常設展示室、他
8月9日 8月10日	重田佑介 (美術家)	ピクセルをうごかそう！ーピクセル・アニメ制作ワークショップー 大きなカプを引っ張る童話の中のヒーローをテーマに、アプリケーションソフト「フリップビット」を使ってアニメーションの制作を行った。ピクセルについての説明から、ソフトの使い方、キャラクターづくり、アニメーション制作とつづく2時間のプログラム。	セミナー室
11月3日 11月4日	末永蒼生 (色彩心理研究家) ウォン・ウインツァン (ピアニスト) 江崎泰子 (色彩アートセラピスト) ウォン美枝子 (クリエイター)	新しい幸福へ 音楽・絵・ボディをとおして自分に会おう(いわき市立美術館×いわきアリオス連携事業) ロートレックとベルエポックのパリー1900年展に併せて開催。当時の芸術家たちと時代背景、日本との関係を理解しながら、当時の音楽ダンス、造形表現に思いを馳せて、色彩あそび、身体表現、呼吸法などを体験。それぞれの幸福をテーマにしたポスターの制作に挑戦した。	いわき芸術文化交流館アリオス
11月4日	末永蒼生 (色彩心理研究家) ウォン・ウインツァン (ピアニスト) 江崎泰子 (色彩アートセラピスト) ウォン美枝子 (クリエイター)	親子イメージ遊び(音・色・からだ)(美術館×アリオス連携事業) 布に親子の身体の一部を写し取り、それをデザインの一部にした「家族の旗」を制作。ひきつづき、ウォン氏(ピアノ)と美枝子氏(身体表現)のサポートでボディワークを体験した。	いわき芸術文化交流館アリオス
1月5日～ 1月28日 (19日間)	当館スタッフ	かんたん版画体験コーナー「フロッタージュとステンシルでオリジナルカードをつくろう！」 小・中学生版画展に併せて開催。ステンシルとフロッタージュによるカードづくりを自由に体験。今年から会場を2階ロビーに移して開催。大勢の参加者でにぎわった。	2階ロビー特設会場



アートキャラバン「コロコロオブジェ」(総合教育センター)



講演会「フジタとモデルたちー乳白色の裸婦から群像表現へ」



講演会「現代アートはおもしろい」

日時	講師	講座名(内容)	会場
1月20日	むらかみひとみ (絵本作家・イラストレーター)	わくわくアートスクール「版画を楽しもう」リノリウム版画コース 小・中学生版画展に併せて開催。木版よりやや彫りやすいリノリウム板を素材とした版画制作。	実技講習室
1月21日	むらかみひとみ (絵本作家・イラストレーター)	わくわくアートスクール「版画を楽しもう」スチレン版画コース 小・中学生版画展に併せて開催。フォークで傷をつけたり、型抜きで穴をあけたりと子供でも自由に版が作れるスチレン版画。幼児から小学4年生までが、楽しく制作。仕上がりに満足していた。	実技講習室
2月16日	増田聡子 (画家・収蔵作家)	収蔵作家ワークショップ 絵ふでのリズム…春のあしおと 講師がスライドを使って自分の表現について解説。その後、「春のあしおと」をテーマに、和紙に水彩絵具1色で描くという作品制作に挑戦。絵具箱からテーマに沿った1色を選ぶこと、絵具の濃さによるグラデーション、絵具のにじみなど、普段に無い描写法を楽しんだ。	上遠野小学校
2月17日 2月18日	増田聡子 (画家収蔵作家)	収蔵作家ワークショップ 絵ふでのリズム…春のあしおと スライドレクチャーの後、常設展示室で作家作品《KINA-Siegen》を鑑賞。作品前にしたトークを行った。ひきつづき、参加者が持ち寄った春の訪れを感じさせるモチーフを題材にキャンバスボード、和紙それぞれの質感を生かした作品2点を制作。仕上げた作品を展示した発表会を開催して好評を得た。	セミナー室

普及事業 実技講座

開催中の展覧会に関連したプログラムや美術館ならではのプログラムなど、普段なかなか体験する機会がない技法や表現方法の体験から自身の表現へと繋げる内容で実施した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
6月17日 6月18日	小森琢己 (版画家)	リトグラフ入門Ⅰ ダイヴィッド・ホックニー版画展に併せて開催。公開制作と運動するかたちで実施。1日目製版、2日目には刷りの作業を行い、作品1点を完成させた。制作した作品は、後日1階ロビーに展示。	実技講習室
8月1日 8月2日	小松宏誠 (美術家)	風植物の庭研究所 魔法の美術館展に併せ、出品作家を講師に迎えて開催。「風にのってふわり」とび、着地する植物」を参加者各自がイメージし、自分独自の風植物を制作。つくりだした風植物群によるインスタレーションを会期中展示した。	1Fロビー
12月2日 12月3日	小森琢己 (版画家)	リトグラフ入門Ⅱ ローレックとベル・エポックの巴里-1900年展に併せて開催。6月に開催したリトグラフ入門講座に引き続き講座。はがきサイズの2色2版、2作品を制作。	実技講習室
1月6日	関口光太郎 (造形作家)	厄除け!!新聞紙とガムテープで巨大犬「播磨のめっかい」 小・中学生版画展に併せて開催。新聞紙とガムテープで巨大犬「播磨のめっかい」を参加者全員で制作。新聞紙に親しむ活動(かくれんぼ、雪合戦、高さ比べ対決)、昔話「播磨のめっかい」の読み聞かせを通して作品制作への意識を高め、参加者全員が協力して大作を仕上げた。作品は版画展終了まで展示。	1Fロビー



ワークショップ「自分を描くこと—自画像の魅力(大人コース)」



ワークショップ「自分を描くこと—自画像の魅力(子どもコース)」



ワークショップ「ピクセルをうごかそう!—ピクセル・アニメ制作ワークショップ—」

日時	講師	講座名(内容)	会場
1月7日	関口光太郎 (造形作家)	厄除け!!新聞紙とガムテープで巨大犬「播磨のめっかい」自由参加コース 前日に引き続き新聞紙とガムテープによる作品づくり。自由参加型で、個々が自由に小品づくりを楽しむコース。	実技講習室

普及事業 公開制作

実技講習に先立ち、作家の制作を公開するカタチで実施。あまり目にする事のない作家の作品制作の過程を多くの人に紹介すると同時に実技講座の導入としての位置づけも兼ねて開催した。

日時	講師	講座名(内容)	会場
6月17日 6月18日	小森琢己 (版画家)	リトグラフ入門Ⅰ デイヴィッド・ホックニー版画展に併せて開催。実技講座と運動するカタチで実施。1日目にリトグラフ制作の概論についてのお話、リトグラフの製版、2日目には刷りの制作過程を公開した。	実技講習室
8月1日 8月2日	小松宏誠 (美術家)	風植物の庭研究所 魔法の美術館展に併せ、出品作家を講師に迎えて開催。植物について、また、講師が考案する風植物についての話の後、実際に「風によってふわりとどび、着地する植物」をイメージした作品の制作過程を公開した。	1階ロビー特設会場
12月2日 12月3日	小森琢己 (版画家)	リトグラフ入門Ⅱ ロートレックとベル・エポックの巴里—1900年展に併せて開催。6月に開催したリトグラフ入門講座に引き続き開催。	実技講習室

普及事業 映像鑑賞会

映像ソフト(DVDなど)の利用により、主に企画展に関連した映像鑑賞会。本年度は、未開催。

日時	講師	講座名(内容)	会場
(本年度は、映像鑑賞会は未開催。)			

普及事業 コンサート& パフォーマンス

時代とともに多様化する表現芸術を企画展、常設展と関連づけながら多角的に紹介する。美術と異ジャンルとの積極的なかわりが生み出す相乗効果を体感しながら、さまざまな時代の雰囲気や垣間見れる機会となるよう心がけている。

日時	講師	講座名(内容等)	会場
1月8日	ダンスユニット 「んまつー波斯」 演出：高橋ゆみ子 (振付師) 美術：樺島優子 (テキスタイル アーティスト)	いわき市立美術館×いわきアリオス連携事業 めいれいどおりすずめ！アリオスから美術館に侵入せよ！ 「ダンス観戦(太くて低い虹)」 「芸術空間に体育を展示・上演する」ダンスユニット「んまつー波斯」による、常設展示室での公演。芸術文化交流館アリオスでのワークショップと連携し、公演前には、ワークショップ参加者による「美術館侵入」ワークショップを実施。事業まための公演として、体育的な身体表現による躍動的で新感覚なダンスを堪能。	常設展示場、他



ワークショップ「新しい幸福へ 音楽・絵・ボディをとおして自分に出会う(いわき市立美術館×いわきアリオス連携事業)」(いわき芸術文化交流館アリオス)



ワークショップ「親子イメージ遊び《音・色・からだ》(美術館×アリオス連携事業)」(いわき芸術文化交流館アリオス)



かんたん版画体験コーナー「フロタージュとステンシルでオリジナルカードをつくろう！」

普及事業

出版

● THE GALLERY =いわき市立美術館ニュース
当館のニュースとして「THE GALLERY」を2回発行した。

No.64 (平成 29 年 10 月 25 日発行)

- ・いわき市立美術館の普及事業 その5 実技講座 (普及係長 柴田百合子)
- ・企画展紹介 現代アートの輝き—多様な人間像—ピカソからウォーホルまで (学芸課長 杉浦友治)
- ・企画展紹介 ロートレックとベル・エポックの巴里—1900 年 (普及係長 柴田百合子)
- ・展示室から 現代アート総選挙投票所 (学芸員 太田紋乃)
- ・裏方だより 過去と未来をつなぐアルチザン—作品保存修復家という仕事 (専門学芸員 植田玲子)
- ・常設展示室から (主任学芸員 竹内啓子)
- ・コレクション—この1点 新収蔵作品から 田口安男《樹枝》 (学芸員 江尻英貴)
- ・今後の主な展覧会事業のご案内

No.65 (平成 30 年 3 月 31 日発行)

- ・いわき市立美術館の普及事業 その6「春を祝う」コンサート／パフォーマンス (普及係長 柴田百合子)
- ・企画展紹介 エリック・カール展 すべての子どもたちと、かつて子どもだったおとなたちへ (専門学芸員 植田玲子)
- ・企画展紹介 追悼特別展 高倉健 (学芸課長 杉浦友治)
- ・企画展紹介 美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方 (学芸員 江尻英貴)
- ・展示室から (普及係長 柴田百合子)
- ・裏方だより (学芸員 太田紋乃)
- ・常設展示室から (主任学芸員 竹内啓子)
- ・コレクション—この1点 アンリ・マティス 詩画集『ジャズ』より『道化師』 (学芸員 太田紋乃)
- ・今後の主な展覧会事業のご案内



●いわき市立美術館年報

平成 28 年度年報 B5 判 79 ページ

●展覧会図録等

- ニューアートシーン・イン・いわき 片口直樹 聴くことの比喩 A4 判 観音折り (8 ページ)
- レオナルド・フジタとモデルたち (鑑賞ガイド) A4 判 2つ折り (4 ページ)

普及事業

実技講習室の公開

実技講座の参加者を対象に講座で学んだ技法をさらに深めるために場所と備品を開放。ほぼ月2回の定期的な銅版画制作の利用があった。

日時	講師	講座名(内容等)	会場
4月～		実技講座参加経験者による自己研鑽補助、実技相談等	実技講習室



わくわくアートスクール「版画を楽しもう (リノリウム版画コース)」



わくわくアートスクール「版画を楽しもう (ステンシル版画コース)」



ワークショップ「収蔵作家ワークショップ 絵ふでのリズム…春のあしおと」(上遠野小学校)

普及事業

図書室の公開

午前9時30分から午後5時まで（7、8月の金曜日は午後8時まで）、室内閲覧に限り図書室を公開している。貸出業務は行っていない。展覧会図録など図書室で公開していない資料類についても、利用者の申し出により閲覧できる。

また、常設展・企画展に併せ、鑑賞の一助になるよう関連図書を会場内の一箇所に配置している。

普及事業

実習生の受け入れ

■博物館実習

7月25日（火）～8月6日（日）にかけて、学芸員資格取得を目的とする博物館実習を行い、2名の実習生を受け入れた。

■インターンシップ（職場体験学習）

市内の中学校、高等学校の要請を受け入れ、生徒の勤労への理解・関心を深め職業観の形成や職業選択の一助となることを目的としたインターンシップ（職場体験）を行った。

- 9月13日（水） 平第三中学校3学年 2名
- 9月15日（金） 小名浜第一中学校1学年 1名
- 9月20日（水） 植田東中学校3学年 2名
- 9月22日（金） 平第一中学校3学年 1名
- 10月3日（火）～10月5日（木） 好間高等学校1学年 3名
- 12月13日（水）～12月15日（金） 小名浜高等学校2学年 3名

普及事業

共催事業

月日	講師等	講座名	共催先	会場
9月9日 9月10日	いわき市立美術館友の会会員 いわき美術協会会員	裸婦デッサン会	いわき市立美術館友の会 いわき美術協会	企画展示室
11月25日	福島県教育センター担当、当館学芸員	先生のための図画工作・美術鑑賞法指導講座	福島県教育センター	セミナー室、 企画展示室、 常設展示室
2月11日	いわき市美展運営委員会 会書の部招待作家	市美展書の部席上揮毫	いわき市美展運営委員会(書の部)	1階ロビー特設会場
2月11日	いわき市民美術展覧会 書の部招待作家	市美展書の部招待作家による作品解説会	いわき市民美術展覧会運営委員会 (書の部)	企画展示室



ワークショップ「収蔵作家ワークショップ 絵ふでのリズム…春のあしおと」



実技講座「風植物の庭研究所」



実技講座「リトグラフ入門Ⅱ」

月 日	講 師 等	講 座 名	共 催 先	会 場
2月24日	いわき市民美術展覧会 絵画・彫塑の部招待作家	市美展絵画彫塑の部招待作家による入選 作品批評会	いわき市民美術展覧会運営委員会 (絵画・彫塑の部)	企画展示室
3月10日	安藤家御家流いわき会	市美展陶芸の部呈茶会(市民がつくった 茶碗を使って)	いわき市民美術展覧会運営委員会 (陶芸の部)	1階ロビー特設会場
3月11日	いわき市民美術展覧会 陶芸の部部会員	市美展陶芸の部タッチコーナー開設	いわき市民美術展覧会運営委員会 (陶芸の部)	2階ロビー特設会場
3月18日	いわき市民美術展覧会 陶芸の部部会員	市美展陶芸の部タッチコーナー開設	いわき市民美術展覧会運営委員会 (陶芸の部)	2階ロビー特設会場
3月11日	いわき市民美術展覧会 写真の部招待作家	市美展写真の部招待作家による(入賞)作 品解説会	いわき市民美術展覧会運営委員会 (写真の部)	企画展示室

撮影：布施雅彦／いわきアリオススタッフ



実技講座「厄除け？新聞紙とガムテープで巨大犬「播磨のめっかい」



コンサート&パフォーマンス「めいれいどおりすすめ！アリオスから美術館に侵入せよ！『ダンス観戦《太くて低い虹》』（いわき市立美術館×いわきアリオス連携事業）」

所 蔵 資 料

- A. 美術作品収蔵状況
- B. 美術作品貸出状況
- C. 資料の購入等に関する状況

A. 美術作品収蔵状況

年度	購 入		寄 贈		移管 点数	計 点数	寄 託	
	点数	備 考	点数	備 考			点数	備 考
昭55年	68	※	10			78	1	一色ちか子作品
56	115	※	337	宝船 312 点		452	1	大平華泉《白河城跡》(h.19 返却)
57	75		26	※		101		
58	357		67	資料 3 点含む	5	429		
59	54		27		4	85		
60	53		37			90		
61	23		105		7	135	1	下村観山作品
62	7		22			29		
63	21		8			29		
平成元	11		9		2	22		
2	17		28	資料 2 点含む		45	38	
3	10		5			15	1	舟越桂作品
4	9		9			18	4	田口安男作品(h.23返却)
5	9	※	0			9		
6	5		4			9	8	田口安男作品(h.23返却)
7	7		4			11		
8	7		2			9		
9	11		1			12		
10	28		6			34		
11	8	※	37			45	-38	平成 2 年度寄託作品返却
12	11		23			34	5	松田松男作品
13	8		22			30		
14	8		1			9		
15	12		42			54	2	中村一美作品
16	33		13			46		
17	17		8			25		
18	3		1			4		
19	0		3			3	-1	大平華泉《白河城跡》
20	0		30			30	14	イケムラレイコ作品13点、 河口龍夫 1 点
21	0		1		0	1		
22	0		0		0	0		
23	0		40	資料 9 点含む	0	40	-12	田口安男作品(平成 4 年 度、平成 6 年度寄託作品)
24	0		116		0	116		
25	0		18		0	18		
26	0		22		0	22		
27	0		14		0	14		
28	0		157		0	157		
29	0		29		0	29		
計	987		1,284		18	2,289		

※：平成 21 年度に見直し。

B. 美術作品貸出状況

作家名	作品名	貸出先	貸出期間	目的(展覧会名)
鈴木芳子	私の像	茨城県天心記念五浦美術館	2017年 8月25日～10月18日	ひとのかたち～人物表現を味わう～
フランシス・ベーコン	鏡に映る記述する人			
ジャン・デュビュッフエ	瞬間の定着			
河口龍夫	DARK BOX 2011	アーツ前橋	2017年10月3日～ 2018年2月14日	ヒックリコ ガツクリコ ことばの生まれる場
河口龍夫	失語の祈り 3.17			
ブリジット・ライリー	オルフェウス悲歌Ⅰ	DIC川村記念美術館	2018年 3月20日～	ブリジット・ライリー展
ブリジット・ライリー	オルフェウス悲歌Ⅱ			
ブリジット・ライリー	ラー			

C. 資料の購入等に関する状況

●図書資料

	購 入			受 贈			計
	図 書	図録・目録	館報・紀要	図 書	図録・目録	館報・紀要	
平成24年度まで	5,095	163	6	2,485	17,989	4,840	30,578
平成25年度	16	8	0	82	460	214	780
平成26年度	47	4	0	84	374	222	731
平成27年度	9	3	0	73	468	210	763
平成28年度	26	0	0	76	367	173	642
平成29年度	99	1	0	59	323	178	660
計	5,472	179	6	2,859	19,981	5,837	34,334

●映像資料

	購 入								受 贈								計	
	CD	DVD	ビデオテープ	LD	フィルム	スライド	カセットテープ	その他	CD	DVD	CD-R	ビデオテープ	LD	フィルム	スライド	カセットテープ		電子ブック
平成24年度まで	22	74	245	51	11	16	0	0	72	54	1	59	0	0	0	1	1	607
平成25年度	1	1							4	8		1						15
平成26年度	1								6	10								17
平成27年度									10	15								25
平成28年度										9	2							11
平成29年度										1	4							5
計	24	75	245	51	11	16	0	0	92	97	7	60	0	0	0	1	1	680

D. 平成29年度新収蔵作品

凡 例

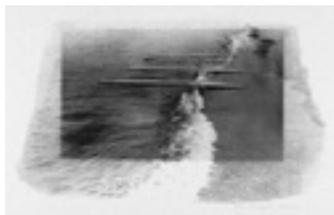
1. この目録には、平成29年度のいわき市立美術館新収蔵作品を収録した。
2. 作品の分類は、平面作品Ⅰ（直接技法に基づくもの）、平面作品Ⅱ（間接技法に基づくもの：版画等）、平面作品Ⅲ（ポスター、写真等）、立体作品、映像・その他。
3. 各作品のデータは以下の通り。
整理番号／作者名（生没年）
作品名
制作年
技法・材質
寸法
サインの位置及び年記
最初の発表展覧会及び受賞歴
収蔵の経緯
登録番号
4. 作家名は分類ごとに日本人作家と外国人作家に大別し、日本人作家は五十音順に、外国人作家は姓のアルファベット順に配列した。
5. 制作年は、作品に明記されているもの、及び制作事情の明確なものに限って記載した。
6. 寸法は、センチメートルを単位として、平面作品では画面の縦×横、立体作品では高さ×幅×奥行きとした。

【平成29年度 収蔵作品分類】

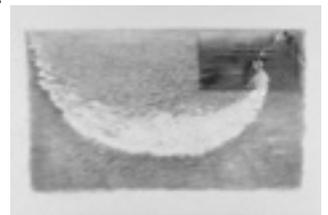
平面作品Ⅰ	5点
平面作品Ⅱ	3点
平面作品Ⅲ	1点
立体作品	20点
映像・その他	0点
資料	0点
計	29点

〈平面作品Ⅰ〉

1. 河口龍夫（1940- ）
陸と海からの時相
1970-2017
ゼログラフィー、
鉛筆・紙
38.1×54.1
受贈 河口龍夫
2017-2



2. 河口龍夫（1940- ）
陸と海とその外側
1970-2017
ゼログラフィー、
鉛筆・紙
70.0×100.0
受贈 河口龍夫
2017-3



3. 河口龍夫（1940- ）
陸と海とその裏側
1970-2017
ゼログラフィー、
鉛筆・紙
18.4×31.0
受贈 河口龍夫
2017-4



(表面)



(裏面)

4. 殿敷 侃 (1942-1992)
 題不明 (鳥居など)
 1972
 インク・紙
 10.0×15.0
 受贈 天野紋子
 2017-6

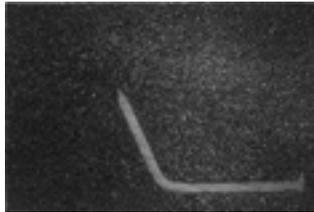


5. 殿敷 侃 (1942-1992)
 題不明
 1973頃
 油彩・カンヴァス
 27.5×22.0
 受贈 天野紋子
 2017-7



〈平面作品Ⅱ〉

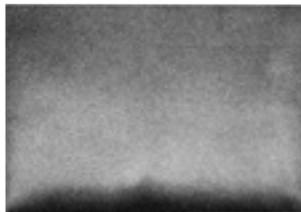
1. 殿敷 侃 (1942-1992)
 くぎ
 不詳
 アクアチント・
 紙 (12/40)
 5.4×8.0
 受贈 天野紋子
 2017-8



2. 殿敷 侃 (1942-1992)
 くぎ
 不詳
 アクアチント・
 紙 (12/30)
 5.5×7.7
 受贈 天野紋子
 2017-9



3. 殿敷 侃 (1942-1992)
 霊地
 1980-81頃
 シルクスクリーン・
 紙 (30/40)
 37.5×54.0
 受贈 天野紋子
 2017-10



〈平面作品Ⅲ〉

1. 河川龍夫 (1940~)
 陸と海 1970年4月22日7時19分59秒
 1970
 写真
 18.4×31.0
 受贈 河川龍夫
 2017-1



〈立体作品〉

1. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (足↔靴)

不詳

アクリル・布、厚紙

7.0×7.5×25.5

受贈 田口安男

2017-11



2. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (黒猫↔赤)

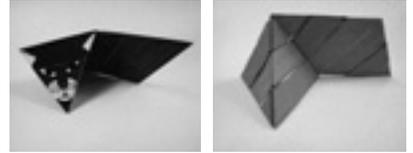
不詳

アクリル・布、厚紙

8.5×20.0×10.0

受贈 田口安男

2017-12



3. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (コーン↔ソフトクリーム)

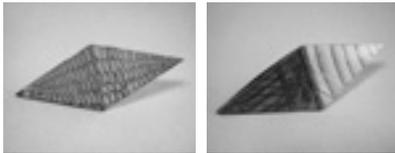
不詳

アクリル・布、厚紙

6.5×20.5×7.5

受贈 田口安男

2017-13



4. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (貝↔裸婦)

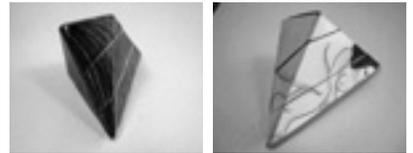
不詳

アクリル・布、厚紙

7.0×10.0×6.0

受贈 田口安男

2017-14



5. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (トラ猫↔黒猫)

不詳

アクリル・布、厚紙

10.5×21.5×11.0

受贈 田口安男

2017-15



6. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (トラ猫↔黒猫)

不詳

アクリル・布、厚紙

8.5×17.5×9.0

受贈 田口安男

2017-16



7. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (トラ猫↔おしどり)

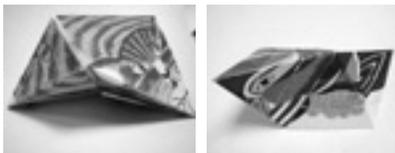
不詳

アクリル・布、厚紙

7.5×17.5×11.0

受贈 田口安男

2017-17



8. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (西瓜↔鳩)

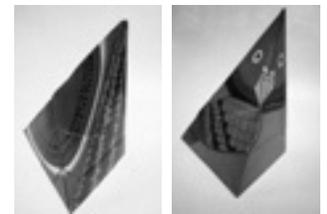
不詳

アクリル・布、厚紙

18.5×19.0×14.0

受贈 田口安男

2017-18



9. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (西瓜↔兎と亀)

不詳

アクリル・布、厚紙

8.0×16.0×9.3

受贈 田口安男

2017-19



10. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (ふた付回転箱)

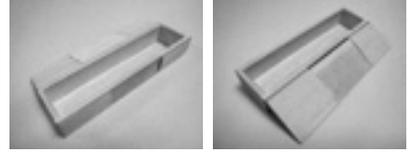
不詳

アクリル・布、厚紙

3.4×20.0×5.0

受贈 田口安男

2017-20



11. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (孔雀↔首)

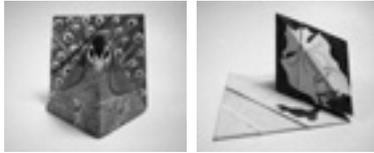
不詳

アクリル・布、厚紙

9.5×10.2×8.5

受贈 田口安男

2017-21



12. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (体操選手↔日の丸)

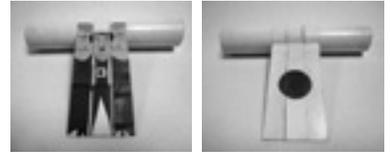
不詳

アクリル・布、厚紙

3.5×18.0×16.0

受贈 田口安男

2017-22



13. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (兎↔ライオン)

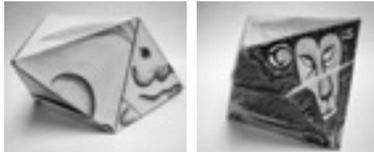
不詳

アクリル・布、厚紙

15.0×18.0×31.0

受贈 田口安男

2017-23



14. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (兎↔亀)

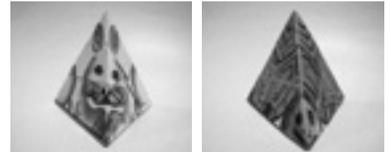
不詳

アクリル・布、厚紙

8.5×10.3×9.0

受贈 田口安男

2017-24



15. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (緑↔赤)

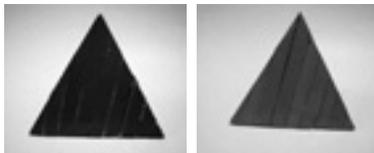
不詳

アクリル・布、厚紙

13.0×15.0×13.0

受贈 田口安男

2017-25



16. 秋山泰計 (1927-1986)

おびからくり (ヒラメ↔鯛)

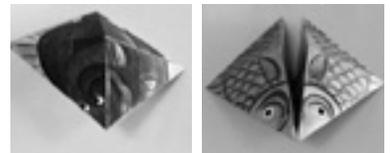
不詳

アクリル・布、厚紙

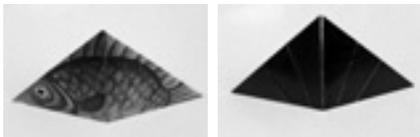
8.3×31.0×31.0

受贈 田口安男

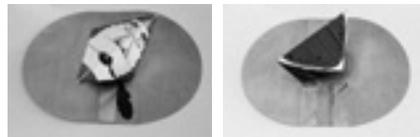
2017-26



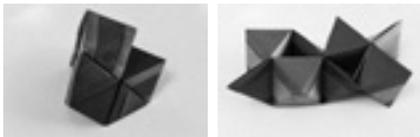
17. 秋山泰計 (1927-1986)
おびからくり (鯛↔黒)
不詳
アクリル・布、厚紙
22.5×45.0×12.2
受贈 田口安男
2017-27



18. 秋山泰計 (1927-1986)
おびからくり (お盆の首↔お盆の上のスイカ)
不詳
アクリル・布、厚紙
9.5×40.0×30.0
受贈 田口安男
2017-28



19. 秋山泰計 (1927-1986)
からくり正四面体
不詳
アクリル、カシュー・布、厚紙
16.0×19.0×19.0
受贈 田口安男
2017-29



20. 河口龍夫 (1927-1986)
関係—教育・エドゥカティオ(63)
2000
平成9年度卒業生名簿、蜜蝋、銅、銅線、木
10.8×36.6×51.7
受贈 河口龍夫
2017-5



いわき市立美術館条例

昭和58年12月27日いわき市条例第58号

(設置)

第1条 美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与するため博物館法（昭和26年法律第285号。第10条において「法」という。）第18条の規定により、美術館を設置する。

(名称及び位置)

第2条 美術館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町4番地の4

(事業)

第3条 いわき市立美術館（以下「美術館」という。）は、その目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術作品その他の美術に関する資料(以下「美術作品等」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 美術に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、講演会、講習会、映写会等を開催すること。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、美術館の設置の目的を達成するために必要な事業

(観覧料)

第4条 美術館の常設展（美術作品等の常設展示をいう。以下同じ。）を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、美術館の特別展（常設展以外の展示をいう。以下同じ。）と併せて観覧する場合又は国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第2条に規定する国民の祝日において観覧する場合は、この限りでない。

2 特別展を観覧しようとする者は、別表第2に定める額の範囲内において、市長が定める観覧料を納付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第5条 学術研究等のため、美術館に展示され、又は保管されている美術作品等の写真撮影、模写又は模造等しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の許可を受けた者は、別表第3に定める撮影等料金を納付しなければならない。

(観覧料等の免除)

第6条 市長は、次の各号の一に該当すると認めるときは、観覧料（常設展に係るものに限る。）又は撮影等料金を免除することができる。

- (1) 外国人留学生が、福島県の実施する外国人留学生文化施設等無料観覧制度に基づき観覧するとき。
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に係る事業の用に供するため撮影等をするとき。

(観覧料等の不返還)

第7条 既納の観覧料又は撮影等料金は、返還しない。ただし、市長は、災害その他不可抗力により、観覧又は撮影等をするのができなくなったときは、既納の観覧料又は撮影等料金を返還することができる。

(入館の制限)

第8条 教育委員会は、美術館に入館しようとする者又は入館している者が次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を制限し、又は館外へ退館させることができる。

- (1) 他人に危害を加え、又は迷惑を及ぼすおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は美術作品等を損傷するおそれがあるとき。

(3) 前2号に掲げるもののほか、美術館の管理に支障があると認めるとき。

(賠償責任)

第9条 入館者は、施設、設備又は美術作品等を損傷し、又は滅失したときは、教育委員会の指示するところに従い、その損害を賠償し、又はこれを原状に回復しなければならない。ただし、市長は、相当の理由があると認める場合は、その全部又は一部を免除することができる。

(美術館協議会)

第10条 法第20条第1項の規定に基づき、いわき市立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が委嘱する。

3 協議会は、委員15人以内で組織する。

4 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(委任)

第11条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この条例は、昭和59年4月28日から施行する。ただし、第1条から第3条まで、第10条及び第11条の規定は、昭和59年4月1日から施行する。

(略)

附 則（平成25年12月26日いわき市条例第67号）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一 般	210円	170円
高校生、高等専門学校生、大学生	150円	110円
小学生、中学生	70円	50円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第2（第4条関係）

区 分	観 覧 料	
	個 人	団 体
一 般	1,500円	1,200円
高校生、高等専門学校生、大学生	740円	590円
小学生、中学生	440円	350円

備考 団体とは、20人以上をいう。

別表第3（第5条関係）

区 分	料 金		
写 真 撮 影	モノクローム	1点1回につき	1,620円
	カラー	1点1回につき	3,240円
模 写 、 模 造		1点1日につき	2,160円
熟 覧 、 拓 本		1点1回につき	210円

- 備考 1 ^{びょう}屏風は、1双を1点とする。
2 1そろいの卷子（巻物をいう。）は、1巻を1点とする。
3 対幅は、1幅を1点とする。
4 撮影は、同一作品について原板3枚以内を1回とする。

いわき市立美術館管理規則

昭和59年3月31日いわき市教育委員会規則第6号

(趣旨)

第1条 この規則は、いわき市立美術館条例（昭和58年いわき市条例第58号。以下「条例」という。）の規定に基づき必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 いわき市立美術館（以下「美術館」という。）に、次の課及び係を置く。

庶務課 庶務係

学芸課 学芸係、普及係

(事務分掌)

第3条 課の事務分掌は、次のとおりとする。

庶務課

- (1) 公印の保管に関する事。
- (2) 予算の経理に関する事。
- (3) 美術館の維持管理に関する事。
- (4) 観覧料及び撮影等料金の徴収に関する事。
- (5) 統計に関する事。
- (6) 美術館協議会に関する事。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸課の所掌に属しない事務に関する事。

学芸課

- (1) 美術作品等の収集、保管及び展示に関する事。
- (2) 美術に関する専門的な調査研究に関する事。
- (3) 展覧会、研究会、講演会、映写会等の開催に関する事。
- (4) 美術に関する案内書、解説書、目録等の刊行に関する事。
- (5) 美術作品等の利用に関する助言及び指導に関する事。
- (6) 美術作品等の寄贈及び寄託に関する事。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、学芸事務に関する事。

(職及び職務)

第4条 美術館に館長、副館長、課に課長、係に係長を置き、必要に応じ、参事、主幹、主任主査、専門学芸員、主査、主任学芸員、事務主任、主事、学芸員、主任運転手及び運転手を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 参事は、上司の命を受け、美術館の事務に関する企画及び調整に参画する。
- 4 副館長は、館長の職務遂行を補佐し、館長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 5 主幹は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を掌理する。
- 6 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。
- 7 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
- 8 主任主査は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
- 9 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の専門的な事務を処理する。
- 10 主査は、上司の命を受け、美術館の事務の一部を分担処理する。
- 11 主任学芸員は、上司の命を受け、係の事務のうち特定の事務を処理する。
- 12 事務主任は、上司の命を受け、係の事務の一部を分担処理する。
- 13 主事は、上司の命を受け、事務をつかさどる。
- 14 学芸員は、上司の命を受け、専門的な事務を処理する。
- 15 主任運転手は、上司の命を受け、担任の自動車運転の業務を処理する。
- 16 運転手は、上司の命を受け、自動車運転の業務に従事する。

(休館日)

第5条 美術館の休館日は、次の各号に掲げる日とする。ただし、教育委員会は、必要があると認めるときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日にあたる場合は、その日以後のその日に最も近い休日でない日）
- (2) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

(開館時間)

第6条 美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時（入館は、午後4時30分）までとする。ただし、毎年7月及び8月の金曜日については、午前9時30分から午後8時（入館は、午後7時30分）までとする。

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧券の交付)

第7条 条例第4条の規定により、観覧料を納付した者に対して観覧券（第1号様式）を交付しなければならない。

(撮影等の許可及び料金)

第8条 条例第5条第1項に規定する撮影、模写又は模造等（以下「撮影等」という。）をしようとする者は撮影等許可申請書（第2号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、撮影等を許可したときは、撮影等許可書（第3号様式）を交付する。

(観覧料等の減免)

第9条 条例第6条第2号又はいわき市障害者、高齢者及び児童生徒等の利用に係る公の施設の使用料の減免に関する条例（平成13年いわき市条例第56号）第5条第1項の規定により観覧料又は撮影等料金の減免を受けようとするときは、観覧料・撮影等料金減免申請書（第4号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

2 教育委員会は、前項の規定による申請があった場合において、観覧料又は撮影等料金の減免を決定したときは、観覧料・撮影等料金減免通知書（第5号様式）を交付する。

(観覧料等の返還)

第10条 条例第7条の規定により観覧料又は撮影等料金の返還を受けようとする者は、その理由を記載した観覧料・撮影等料金返還申請書（第6号様式）を教育委員会に提出しなければならない。

(美術館協議会の会長及び副会長)

第11条 条例第10条に規定するいわき市立美術館協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長各1人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第12条 協議会の会議は、会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(事務処理及び服務)

第13条 美術館における事務処理及び服務については、いわき市教育委員会事務局処務規程（昭和47年いわき市教育委員会訓令第2号）に基づく事務処理及び服務の例による。

(委任)

第14条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、昭和59年4月1日から施行する。ただし、第5条から第10条までの規定は、昭和59年4月28日から施行する。

(略)

附 則（平成22年3月31日いわき市教委規則第5号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

第1号様式（第7条関係）

その1

常 設 展 観 覧 券 (切)	常 設 展 観 覧 券
金 額 取	金 額
(線)	(線)
この券をもって領収に代えます。	
いわき市立美術館	いわき市立美術館

その2

特 別 展 観 覧 券 (切)	特 別 展 観 覧 券	常 設 展 観 覧 券 (切)
金 額 取	金 額	取
(線)	(線)	(線)
この券をもって領収に代えます。		
いわき市立美術館	いわき市立美術館	いわき市立美術館

- 備考 1 寸法、デザイン等については、その都度定める。
 2 観覧券の区分は、一般、高校生・高等専門学校生・大学生及び小学生・中学生とする。

第2号様式（第8条関係）

第2号様式（第8条関係）

撮影等許可申請書

いわき市教育委員会殿

		年 月 日	
注 太枠線のみ記入してください。	申 請 者	住所又は所在地	
	者	氏名又は名称及び代表者	
	第 号 年 月 日 許 可	電話 -	
美術作品の名称		作者名	点数
日時	年 月 日	時 分から	時 分まで
目的			
方法			
料 金	撮 影	モノクローム	点 円 計
		カ ラ ー	点 円
	模 写 ・ 模 造		点 円
	熟 覧 ・ 拓 本		点 円
		館長	副館長
		課長	係長
		係	

第3号様式（第8条関係）

第3号様式（第8条関係）

撮影等許可書

殿

いわき市教育委員会宛

下記のとおり撮影等を許可します。

第 号 年 月 日 許 可			
美術作品の名称	作者名	点数	
日時 年 月 日 時 分から 時 分まで			
目的			
方法			
料 金	撮 影	モノクローム	点 円 計
		カ ラ ー	点 円
	模 写 ・ 模 造		点 円
	熟 覧 ・ 拓 本		点 円
指示事項			

第4号様式（第9条関係）

第4号様式（第9条関係）

観覧料 減免申請書
撮影等料金

いわき市教育委員会

年 月 日

住所（所在地）
申請者 氏名（名称及び代表者氏名）
電話番号
担当者氏名

注意 太枠の中だけ記入してください。

観覧日時		撮影等日時			
年	月	日	時	分	秒
年	月	日	時	分	秒
区	分	常設展	特別展	撮 影 等	
一	般	人	人	写真撮影	点
高	校	生	人	モノクローム	点
高	等	大	人	カラ	点
小	学	生	人	模写・模造	点
小	中	学	人	熟覧・拓本	点
計		人	人	計	点

減免申請の理由

<input type="checkbox"/> 減免する。 <input type="checkbox"/> 減免しない。	減免しない理由	前付すべき観覧料等 円
		減免率
		減免後の観覧料等 円
		起 案 年 月 日
		決 裁 年 月 日
		施 行 年 月 日
		許可番号 第 号

館長 副館長 課長 係長 係員

第5号様式（第9条関係）

第5号様式（第9条関係）

観覧料 減免通知書
撮影等料金

いわき市教育委員会 印

年 月 日

申請年月日		許可番号	
年	月	第	号
年	月	第	号
観覧日時	撮影等日時		
年 月 日 時 分 秒	年 月 日 時 分 秒		
区	分	常設展	特別展
一	般	人	人
高	校	生	人
高	等	大	人
小	学	生	人
小	中	学	人
計		人	人

写真撮影	モノクローム	点
カラ		点
模写・模造		点
熟覧・拓本		点
計		点

減免率

減免後の観覧料

減免後の撮影等料金

第6号様式（第10条関係）

第6号様式（第10条関係）

観覧料 返還申請書
撮影等料金

いわき市教育委員会殿

下記のとおり 観覧料 撮影等料金の返還を受けたいので申請します。

年 月 日

注 太枠線のみ記入してください。

申請者	住所又は所在地
第 号 年 月 日 許可	氏名又は名称及び代表者
申請理由	電話 -
既納観覧料等	
観覧料	枚 円
撮影料等	枚 円
返還申請金額	円

館長 副館長 課長 係長 係員

事業経過報告

平成 30 年 3 月 31 日現在

展 覧 会 名	開 催 期 間 (日 数)	料 金						入 場 者 数						29 年 度 計			
		一 般			団 体			一 般			団 体				招待	無料	
		一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中	一般	高大	小中				
常 設 展	常設展へようこそ	4/1～9/24 154日間	210	150	70	170	110	50	410	14	76	48	0	0	436	15,689	16,673
	美術のちから	9/26～3/31 154日間	210	150	70	170	110	50	293	21	12	0	0	22	165	3,695	4,208
常 設 展 計 (A) 308日間									703	35	88	48	0	22	601	19,384	20,881
企 画 展	レオナール・フジタとモデルたち —素晴らしき乳白色の肌—	4/15～5/28 39日間	1,300	500	300	1,040	400	240	2,630	55	24	18	0	45	446	4,544	7,762
	デイヴィッド・ホックニー版画展	6/10～7/17 33日間	700	300	200	560	240	160	579	21	7	22	0	27	127	1,093	1,876
	魔法の美術館 光と遊ぶ超体感型ミュージアム	7/29～9/3 33日間	1,000	500	300	800	400	240	8,896	167	1,290	300	0	10	562	13,750	24,975
	現代アートの輝き —多様な人間像—	9/16～10/22 32日間	500	300	100	400	240	80	776	28	10	26	0	0	88	1,186	2,114
	ロートレックとベル・エポックの 巴里—1900年	11/3～12/17 39日間	800	400	200	640	320	160	1,353	37	17	95	86	0	264	2,042	3,894
	ニューアートシーン・イン・いわき 片口直樹—聴くことの比喩展	11/3～12/17 39日間	無 料													4,346	4,346
	いわき市小・中学生版画展	1/5～1/24 20日間	無 料													4,192	4,192
	第47回いわき市民美術展覧会 (書の部)	2/9～2/18 9日間	無 料													897	897
	(絵画・彫塑の部)	2/23～3/4 9日間	無 料													1,845	1,845
	(陶芸の部・写真の部)	3/9～3/18 9日間	無 料													1,737	1,737
企 画 展 計 (B)									14,234	308	1,348	461	86	82	1,487	35,632	53,638
展 覧 会 事 業 計 (A + B)									14,937	343	1,436	509	86	104	2,088	55,016	74,519
普 及 事 業 計 (詳細は次頁のとおり)																4,780	4,780
合 計									14,937	343	1,436	509	86	104	2,088	59,796	79,299

普及事業報告

平成 30 年3月31日現在

事業名	内容等	講師等	月 日	人数
講演会	フジタとモデルたち 一乳白色の裸婦から群像表現へ	佐藤幸宏 (美術史家 / 本展監修 / 北海道近代美術館学芸副館長)	4月15日	40
	藤田嗣治と東北-壁画 (秋田の行事) をめぐって	原田久美子 (公益財団法人平野政吉美術館学芸員)	5月7日	44
	ホックニーに学ぶアートと秘密	齊藤泰嘉 (筑波大学名誉教授)	6月25日	18
	現代アートはおもしろい	中野信子 (脳科学者 / 東日本国際大学教授)	9月30日	46
	ペル・エボックの作家たちとケール・ジャパン	河野泰久 (福井市美術館学芸員)	11月26日	25
小計				173
美術講座	館長講座 (5回)	佐々木吉晴 (当館館長)	4月22日、7月7日、9月24日、12月9日、2月25日	74
	ティーチャーズ・ミュージアム	当館学芸員	8月2日	7
小計				81
ギャラリー・トーク	常設展解説	当館学芸員	毎週土曜日 (52回開催)	72
	レオナルド・フジタとモデルたち-素晴らしき乳白色の肌-	当館学芸員	4月22日、5月20日	46
	デイヴィッド・ホックニー版画展	当館学芸員	7月9日	7
	現代アートの輝き-多様な人間像-ピカソからウォーホルまで	当館学芸員	9月17日、10月14日	20
団体等解説	団体解説	当館学芸員	通年27回	744
小計				889
実技講座	リトグラフ入門I	小森琢己 (版画家)	6月17日、6月18日	16
	風植物の庭研究所	小松宏誠 (美術家)	8月1日、8月2日	21
	リトグラフ入門II	小森琢己 (版画家)	12月2日、12月3日	12
	厄除け!!新聞紙とガムテープで巨大犬「播磨のめっかい」	関口光太郎 (造形作家)	1月6日	13
	厄除け!!新聞紙とガムテープで巨大犬「播磨のめっかい」自由参加コース	関口光太郎 (造形作家)	1月7日	61
小計				123
公開制作 (公開講座)	リトグラフ入門I	小森琢己 (版画家)	6月17日、6月18日	18
	風植物の庭研究所	小松宏誠 (美術家、出品作家)	8月1日、8月2日	79
	リトグラフ入門II	小森琢己 (版画家)	12月2日、12月3日	17
小計				114
ワークショップ	自分を描くこと-自画像の魅力 (大人コース)	高橋克之 (画家)	5月5日	11
	自分を描くこと-自画像の魅力 (子どもコース)	高橋克之 (画家)	5月6日	11
	2017 夏 '美術館的' 自由研究ノススメ	当館学芸員	8月5日、8月6日	10
	ピクセルをうごかさそう! -ピクセル・アニメ制作ワークショップ-	重田佑介 (美術家)	8月9日、8月10日	38
	新しい幸福へ 音楽・絵・ボディをとおして自分に出会う (いわき市立美術館×いわきアリオス連携事業)	末永蒼生 (色彩心理研究家) ウォン・ウインツァン (ピアニスト) 江崎泰子 (色彩アートセラピスト) ウォン美枝子 (クリエイター)	11月3日、11月4日	12
	親子イメージ遊び《音・色・からだ》 (いわき市立美術館×いわきアリオス連携事業)	末永蒼生 (色彩心理研究家) ウォン・ウインツァン (ピアニスト) 江崎泰子 (色彩アートセラピスト) ウォン美枝子 (クリエイター)	11月4日	48
	かんたん版画体験コーナー「フロッカージュとステンシルでオリジナルカードをつくらう!」	当館スタッフ	1月5日～1月28日 (19日間)	1,508
	わくわくアートスクール「版画を楽しもう」リリウム版画コース	むらかみひとみ (絵本作家・イラストレーター)	1月20日	7
	わくわくアートスクール「版画を楽しもう」スチレン版画コース	むらかみひとみ (絵本作家・イラストレーター)	1月21日	32
	取蔵作家ワークショップ 絵ふでのリズム…春のあしおと	増田聡子 (画家)	2月16日	30
	取蔵作家ワークショップ 絵ふでのリズム…春のあしおと	増田聡子 (画家)	2月17日、2月18日	20
	取蔵作家ワークショップ 作品発表会		3月22日～3月25日	103
小計				1,830
コンサート & パフォーマンス	めいわいどおります!アリオスから美術館に侵入せよ!「ダンス観戦《太くて低い虹》」 (いわき市立美術館×いわきアリオス連携事業)	ダンスユニット「んまつーぽす」 演出:高橋ゆみ子 (振付家) 美術:樺島優子 (テキスタイルアーティスト)	1月8日	60
小計				60
映像鑑賞会				
小計				-
移動美術館	アートキャラバン 2017 (全42回)			
	展覧会を10倍楽しむ方法	当館学芸員 (7回)	5月10日～11月21日	310
	ペットボトル工作を楽しもう	当館学芸員 (3回)	5月26日～9月8日	58
	岩絵具で遊んじゃおう	当館学芸員 (7回)	6月7日～9月28日	175
	切り絵・切り紙の楽しい世界	当館学芸員 (11回)	6月9日～11月10日	268
	声ととばのワークショップ 声を出して元気力アップ!	森絵留 (盛名劇団かめ主宰) (4回)	6月28日～12月8日	111
	“福興だるま”に願いを込めて!	山本伸樹 (造形作家) (6回)	6月30日～11月30日	110
	世界にひとつだけのガラスアート	当館学芸員 (3回)	8月8日～10月22日	53
	コロコロオブジェ	当館学芸員 (1回)	10月20日	14
	小計			
実技講習室開放	実技講座修了者による自己研鑽補助、実技相談等		通年 (22回)	60
小計				60
共催事業	裸婦デッサン会	いわき市立美術館友の会、いわき美術協会	9月9日、9月10日	39
	先生のための図画工作・美術鑑賞法指導講座	福島県教育センター	11月25日	10
	市美展書の部席上揮毫	いわき市美展運営委員会 書の部	2月11日	80
	市美展書の部作品解説会	いわき市美展運営委員会 書の部	2月11日	30
	市美展絵画・彫塑の部招待作家による入選作品批評会	いわき市美展運営委員会 絵画・彫塑の部	2月24日	25
	市美展陶芸の部早茶会 (市民がつくった茶碗を使って)	いわき市美展運営委員会 陶芸の部	3月10日	60
	市美展陶芸の部タッチコーナー開設	いわき市美展運営委員会 陶芸の部	3月11日、3月18日	67
	市美展写真の部招待作家による (入賞) 作品解説会	いわき市美展運営委員会 写真の部	3月11日	40
	小計			
合計				4,780

当初予算

単位：千円

項 目	金 額	備 考
人 件 費	66,547	
管 理 費	84,912	
施設管理費	79,404	
作品購入費		
施設整備費	5,508	
事 業 費	72,037	
企画展事業費	67,428	
常設展事業費	890	
教育普及事業費	2,889	
調査研究費	830	
計	223,496	

- A. 美術館協議会委員名簿
B. 美術品選定評価委員会委員名簿
C. 美術館職員名簿

A. 美術館協議会委員名簿

任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

役職	氏 名	職 業 (役職名)
委員	斎藤 一彦	一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー 会長
委員	三室千鶴子	いわき女性の会 元会長
委員	坂本美知子	株式会社いわき市民コミュニティ放送
委員	蛭田 誠	いわき美術協会
委員	鳥海陽太郎	いわき地域学会 幹事
委員	蛭田 光一	いわき青年会議所 事務局次長
委員	相沢とし子	国際ソプロチミストいわき 会長
委員	織田 千代	美術家
委員	草野 怜子	美術家
委員	峰 丘	いわき市立美術館友の会 会長
委員	鈴木 廣美	いわき市小学校教育研究会図画工作部会 部長
委員	野地かおる	いわき市中学校教育研究会美術専門部会 部長
委員	土屋 裕子	福島県高等学校教育研究会美術工芸専門部会 いわき支部長
委員	鎌田真理子	いわき明星大学教授
委員	松田 文子	いわき市子ども会育成会連絡協議会事務局長

【博物館法】

第21条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行うもの並びに学識経験を有する者の中から当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

B. 美術品選定評価委員会委員名簿

任期：平成28年4月1日～平成30年3月31日

役職	氏 名	職 業 (役職名)
	谷 新	美術評論家
	北郷 悟	彫刻家 東京藝術大学学長特別補佐・教授
委員長	市川 政憲	美術評論家
副委員長	清水 真砂	世田谷美術館分館長
	小勝 禮子	美術評論家
	荒木 康子	福島県立美術館学芸課長

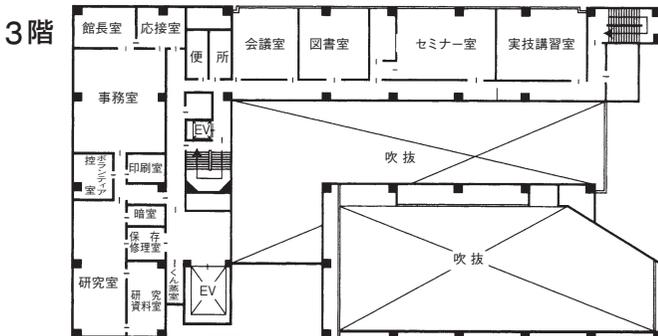
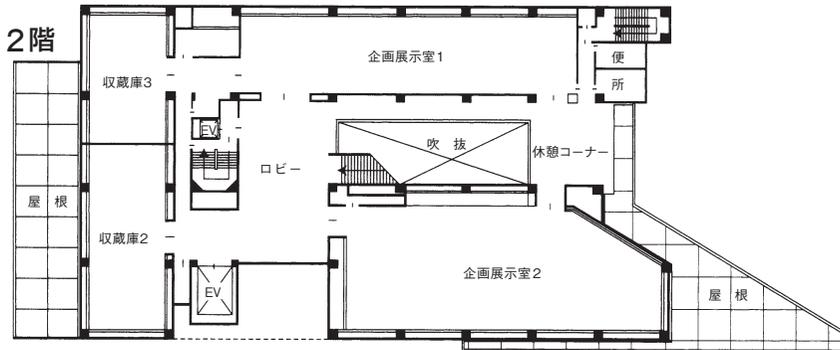
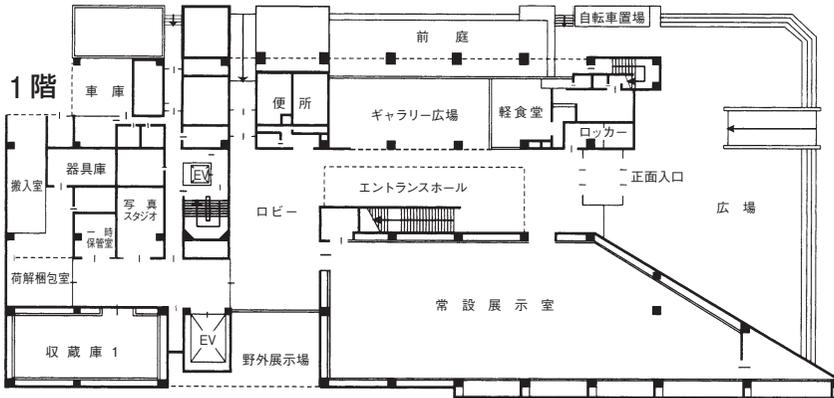
※役職は平成30年1月現在

C. 美術館職員名簿

平成29年4月1日現在

	職 名	氏 名
	館 長 (嘱託)	佐々木 吉 晴
	副 館 長 (併任)	平 野 明 彦
《庶務課》	課 長 [㊟]	高 沢 浩 子
○庶務係	係 長(兼)	高 沢 浩 子
	主 査	宇佐美 千 恵
	事 務 主 任	鈴 木 浩 美
《学芸課》	主 幹 (兼) 課 長 [㊟]	杉 浦 友 治
○学芸係	係 長 (兼)	杉 浦 友 治
	主 任 学 芸 員	秋 葉 啓 子
	学 芸 員	太 田 紋 乃
○普及係	主 任 主 査(兼)係長	石 川 百 合 子
	専 門 学 芸 員	植 田 玲 子
	学 芸 員	江 尻 英 貴

平面図



利 用 案 内

●開館時間

午前9時30分～午後5時（展示室への入場は午後4時30分まで）

7、8月の毎週金曜日は、夜8時まで開館。（展示室への入場は午後7時30分まで）

●休館日

毎週月曜日（ただし月曜日が祝日等の場合は開館し、翌日休館）

年末年始（12月28日～1月4日）

●観覧料

	常設展	企画展（その都度定める）
一 般	210円（170円）	1,500円（1,200円）以内
高・高専・大学生	150円（110円）	740円（590円）以内
小・中学生	70円（50円）	440円（350円）以内

※（ ）内は、20名以上の団体割引料金。

※企画展チケットで常設展もご覧になれます。

●企画展・常設展が無料になる場合

- ・市内在住の65歳以上の方は、企画展・常設展無料
- ・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳のいずれかをお持ちの方は、企画展・常設展無料
- ・土曜日、日曜日に限り、市内の小学校、中学校、高等学校、専修学校（高等課程）、高等専門学校に在学の方は、企画展・常設展無料
- ・祝日は、常設展無料

●図書室の利用時間

午前9時30分～午後5時

7月、8月の毎週金曜日は午後8時まで

●実技講習室の利用時間

午前9時30分～午後4時45分

7月、8月の毎週金曜日は夜7時45分まで

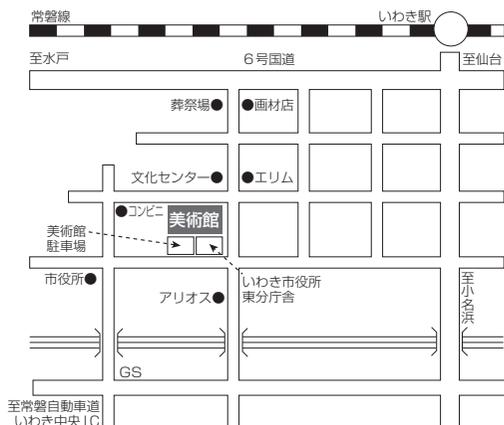
●交 通

JR常磐線、磐越東線いわき駅より徒歩12分

常磐自動車道、磐越自動車道いわき中央ICより10分

駐車場：美術館駐車場、他 いわき市公共駐車場

●地 図



平成29年度
いわき市立美術館年報

編集・発行
いわき市立美術館
〒970-8026 いわき市平字堂根町4-4

